1996年3月20日発行（毎月1回20日発行）第40巻第3号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

3
1996

末日聖徒
イエス・キリスト
教　会

聖徒の道

1996年3月号

オーストラリア内陸部にあるアリス・スプリングスは，活発な末日聖徒の青少年にとって生活の中心となっている。

表紙——ゴムの木に腰かけて談笑する，アリス・スプリングス支部のヤスミン・ウェブスター（左）とラビニア・アーチボルド。

裏表紙——**上**—福音に喜びを見いだしているアリス・スプリングス支部の若い女性たちは，いつも陽気で，転入者や新会員とすぐに打ち解けられる。**下**—スティーブン・エックリー（左）とアイバン・マンにとって内陸部は友達と過ごすかけがえのない場所となっている。(本誌「アリス・スプリングス」p.10，写真／リチャード・ロムニー)

こどものページ表紙——救い主があなたの目を見つめながらほほえんでくださったらどんな気持ちがするか考えたことがありますか。主はどんな声をしていらっしゃるのでしょう。その声で，あなたに何を話されるでしょう。

主の声を聞くにはどうしたらよいかが10ページの「分かち合いの時間——キリストのことば」にのっています。(絵／「山上の垂訓」ハリー・アンダーソン)

一　般

大管長会メッセージ　幸福——すべての人の願い
第一副管長トーマス・S・モンソン …… 2
同性への誘惑　ダリン・H・オークス …… 14
かつての光を思い出す　ウェイド・J・ハッチ …… 26
アンデリン兄弟とシーソー　ロバート・ショーゴ …… 28
ハンガリーの姉妹たち——愛の奉仕　マービン・K・ガードナー …… 34
闇と月　フランク・アウトセルト …… 44
姉妹たちへの愛　ジャン・T・モロイ …… 46

青少年

天父はわたしを御存じです　玉置和子 …… 9
アリス・スプリングス　リチャード・M・ロムニー …… 10
目が見えなくても　ローリー・W・ソーントン …… 32
音楽の力　タマラ・リーサム・ベイリー，クリスティー・ジャイルズ …… 40
これぐらい大好き　ラドーン・リズンメイ …… 42

定期特別記事

読者からの便り …… 1
家庭訪問メッセージ——「わたしのようでなければならない」 …… 31

こども

友だちになろう——シンガポールに住むレイチェル・タン
マイルス・T・ツーアサン …… 2
神権　チャールズ・ディディエ長老 …… 4
テーラー家のゆうれい　ビッキー・シレン作 …… 6
真鍮の版を手に入れるニーファイ …… 9
分かち合いの時間——キリストのことば　カレン・アシュトン …… 10
おもちゃばこ …… 12
歌　子供の時から主を求め　ジョアン・ブッシュマン・ドキシー …… 13
スネーク川下り　ケリー・アインフェルト …… 14

聖徒の道　1996年3月号

本誌は，末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊――イタリア語，英語，オランダ語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，中国語，韓国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，フィンランド語，フランス語，ポルトガル語，ノルウェー語。隔月刊――インドネシア語，タイ語，タヒチ語。季刊――チェコ語，フルガリア語，ハンガリー語，アイスランド語，ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコット，ロバート・D・ヘイルズ，ジェフリー・R・ホランド，ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴーズリンド
顧問：スペンサー・J・コンディー，L・ライオネル・ケンドリック
教科課程管理部責任者
　実務部長：ロナルド・L・ナイトン
　企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
　グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ
国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐／こどものページ：ディエーン・ウォーカー
工程管理：メアリーアン・マーティンデール
出版補佐：ベス・デーリー
デザインスタッフ
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン，デニーズ・カービー，マシュー・H・マックスウェル
予約購売スタッフ
　ディレクター：ケイ・W・ブリッグ
　配送部長：クリス・クリステンセン
　マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道１９９６年３月号第４０巻第３号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
　〒106東京都港区南麻布5-10-30
　電話　03-3440-2351
印刷所　株式会社　リック/クロスロード
定価　年間予約/海外予約2,400円（送料共）
　半年予約1,200円（送料共）
　普通号/大会号200円

Copyright © 1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認－１９９４年８月　翻訳承認－１９９４年８月　原題－International Magazines March, 1996, Japanese. 96983 300

●定期購読は，「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／00100-6-41512）にて管理本部経理課へご送金いただければ，直接郵送いたします。
●『聖徒の道』のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-3440-2351（代表）●『聖徒の道』の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131／末日聖徒イエス・キリスト教会　資材管理部配送センター☎044-811-0417

The *Seito No Michi*(ISSN 0385-7670)is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price $14.00 a year. $1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

読者からの便り

予約購読のプレゼント

バプテスマを受けた約12年前から，ずっと『ヴァルケウス』（フィンランド語版。「光」の意）を予約購読しています。このすばらしい機関誌に感謝しています。おかげで，わたしの生活は霊的な導きと福音の喜びに満たされています。わたしはこの教会が神の教会であると人々に証することに喜びを感じています。また，伝道するときに『ヴァルケウス』は同僚となってくれます。友達にもプレゼントとして年間予約をしていますし，興味を示す人には自分の分を貸すようにしています。

フロリダ州ポンパノビーチステーク
パームビーチワード
アイリーン・カンガス

すばらしい模範

わたしはシンガポールに住むフィリピン人です。仕事のため，教会に行けないこともしばしばです。そんなとき，大好きな『リアホナ』（英語版）を読みます。わたしを力づけてくれ，霊的な支えとなってくれるからです。世界中で福音に従って生活している兄弟姉妹のすばらしい模範について読むとき，感動を覚えます。

シンガポール
エルリンダ・L・ロハス

宣教師のための機関誌

宣教師として，『リアホナ』（ポルトガル語版）の記事を特別なレッスン教材として活用し，効果的に福音を教えられるよう努めています。例えば，ある婦人はレッスンを全部受け入れていましたが，バプテスマを受ける最終的な決断ができないでいました。でも「今日来てくれるって分かってたよ」（『聖徒の道』1994年8月号）を読んで，愛と思いやりの精神を感じ，バプテスマを受けました。

また，以前レッスンを受けたことのある若い女性を同僚とともに教え始めたときのことですが，彼女はまだ教会が真実かどうか分からないでいました。そこで，改宗談が記された「しるしを求めていたわたし」（『聖徒の道』1994年2月号）と「いつか奇跡が起きて」（『聖徒の道』1993年10月号）を読んでみるよう勧めました。やがて彼女もバプテスマを受けました。

わたしたちをこんなにも助けてくれる機関誌に感謝しています。

ブラジル，コンタンジェンステーク
ジビノポリス支部
ホセ・リカルド・B・デ・マデイロス

感銘を与える記事

末日聖徒となってから6年になりますが，その間『リアホナ』（英語版）からいつも助けを得られたことに感謝しています。様々な記事は，わたしに感銘を与え，証を強めてくれます。

フィリピン，マーベル地方部
タクロング支部
アロハ・クラリト

編集室から

皆さんの手紙，記事，物語などをお寄せください。どの国の言葉でもけっこうです。投稿の際は，氏名，住所，ステーク／地方部，ワード／支部名を明記してください。あて先は，下記のとおりです。

International Magazines
50 East North Temple Street
Salt Lake City, Utah 84150 U.S.A.

幸福——すべての人の願い

第一副管長
トーマス・S・モンソン

イエスがわたしたちに歩むよう望んでおられる道をはっきりと見極め，この世的なものや悪しき者のたくらみに惑わされないようにするため，決断力と不動の信念，すなわち眼識を得る必要がある。

人は皆，幸福になりたいと願っています。預言者ジョセフ・スミスはわたしたちの真実の思いを次のような言葉で表現しています。「幸福はわたしたちが存在する目的であり，目標である。したがって，もし幸福につながる道を歩むなら，そこに到達できるだろう。この道とは，徳，正義，忠実さ，神聖の道であり，神のあらゆる戒めを守る道である。」[1]わたしたちが各自の歩みを忠実なものとし，これらの道をしっかりとした足取りで進み，約束された目標を報いとして得られるようにするために，ここに挙げられた道を見直すのは，わたしたちにとって益となるでしょう。

最初の道は徳の道です。この徳について，辞典には「正しい標準に従った生活。……道徳的にひときわ優れた状態」，また「力あるいは不屈の精神」などの有益な資質，すなわち「勇気」という定義が載っています。

何年か前に教会は，若い男性と若い女性の助けとなるよう，一つのプログラムを強調し，特別な真理と励ましのメッセージを印刷した小さなカードとポスターを配付しました。その一連の資料には「自分自身に正直であれ」という見出しが付いていました。強調されていた一つのメッセージは，「徳はそれ自身

がもたらす報いである」という，人の心を奮い立たせる感動的な真理でした。

「義の業を行う者はその報いを受ける，すなわち，この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受けるということを知っておきなさい。」[2]

人生に誘惑は付き物であり，現世を生きるすべての旅人は何らかの形でこれを経験します。しかし，使徒パウロはこの事実を認めたうえで，わたしたちに次のような保証を与えています。「あなたがたの会った試錬で，世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはないばかりか，試錬と同時に，それに耐えられるように，のがれる道も備えて下さるのである。」[3]

「良心は，裁き人として懲らしめを与える前に，友として警告を与えてくれる」とよく言われます。ある若者が，非常に意義深い言葉を語っています。いちばん幸せなのはどんなときかと聞かれて，彼はこう答えました。「良心の呵責を何も感じないときがいちばん幸せです。」

2番目は正義の道です。この道についてのわたし自身の定義として，ヨブ記の第1章1節を挙げたいと思います。そこにはこう書かれています。「ウヅの地にヨブという名の人があった。そのひととなりは全く，かつ正しく，神を恐れ，悪に遠ざかった。」

ヨブの人生は決して穏やかなものではありませんでした。彼は様々な困難に付きまとわれ，財産をなくし，家族の死という悲しみに見舞われ，肉体の苦痛にさいなまれましたが，それでも「神をのろえ」という勧めを退けました。それどころか，その気高い心の奥底から出てきたのは「わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる」[4]という崇高な証だったのです。

世界的に名高いカンザス州トピーカの精神医学センターを創立し発展させた，優れた科学者カール・メニンガー博士は，苦しみや争い，不安に満ちた現代社会が，その道徳的な病を防ぐために期待をかけ得る唯一の道は，罪の存在を認めることである，と述べています。この考えは彼の有名な著書『罪がいかなるものになろうとも(*Whatever Became of Sin*)』のテーマにもなっています。それは，立ち止まって，わたしたちが自分自身に対してしていることを熱視するようにという，すべての人への訴えかけです。メニンガー博士は本の中で，「善を知りながら，悪をなす人々がいるのはどうしたことだろうか」といぶかるソクラテスの言葉を引用し，こう続けています。

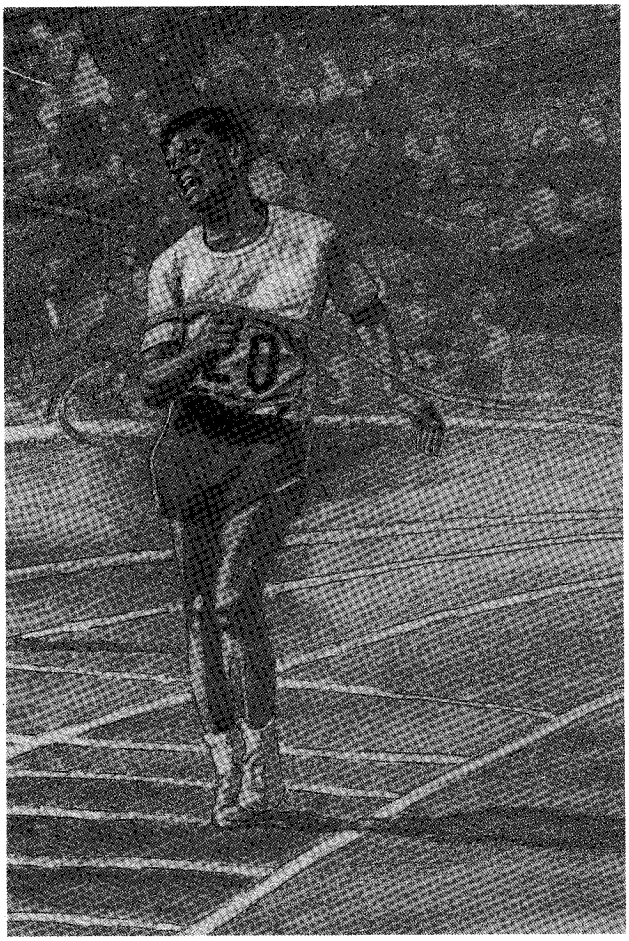
「わたしは，金もうけに忙しい世の特徴である，『みんながしていることだ』式の物の考え方が，人々をむしばんでいるという結論に達した。易きに就く生き方の特徴，すなわち，小さなうそ，ささいなごまかし，冷淡さなどの過ちを正す個人的責任をわたしたちははっきりと認識しなければならない。」彼はさらにこう強調しています。「もし自分自身とほかの人々に対する個人的責任という概念が再び社会全般に受け入れられるようになり，人がもう一度罪の意識を感じて悔い改め，さらなる罪悪を制止する力となる善悪の観念を打ち立てるようになるならば，希望がこの世界に戻って来るだろう。」[5]

わたしが子供のころに学んだ教訓を紹介したいと思います。プロボ渓谷のビビアンパークに，我が家がこれまで5代にわたって所有してきた避暑用の建物があります。7月と8月のわたしの毎日は，ハイキング，釣り，川の淵での水泳で過ぎていきました。その淵には大きな岩場があり，そこから川へ飛び込みました。その後は，大きな音を立てながら危険な渦を巻いている急流の所を泳いで渡ります。冷たい水の中に飛び込んでから，急流を泳ぎ，大きな岩場の前を急いで渡り，最後は流れの緩やかな所に行き，安全な州にたどり着くというのが，ほとんどの人にとってお決まりのコースでした。しかし，一人だけ違う人がいました。彼の名は「ビーフ」・ピーターソン。(訳注――「ビーフ」には肉付き，筋肉の意がある。)その水着には「人命救助員」の文字が入り，筋肉隆々という体をしていました。ビーフもほかの人たちと同じように，よく渦のある流れを泳いでいました。しかし，その後が違うのです。彼は急に進む方向を変え，流れに逆らって泳ぐのです。その力強いストロークで少しの距離は進みます。しかし，川の急な流れに逆らうことはできません。さしものビーフも次第に力が落ちてきて，疲れ切った状態で，流されるようにして岸まで泳いで行くのです。川のさかのぼりはビーフ・ピーターソンのトレードマークでした。

兄弟姉妹の皆さん，わたしたちは義務と責任を果たすために，度々誘惑と罪の流れに逆らって泳ぐことがあります。そうするときに，わたしたちの霊性は高められ，神から与えられた責任に堪えられるようになるのです。

カリフォルニア州アナハイムのディズニーランドで人々の人気を集めている乗り物の壁には，真理の模範が書かれています。息もつかせず，ぞくぞくするような体験ができるというその船に乗り込むとき，アンクル・リーマスの次の言葉が目に入ってきます。「つらいことから逃げ出すなんてできないぞ。大体，逃げられるほど遠い場所なんてありはしないんだ。」

3番目は，忠実の道です。この道には，忠誠，誠実，約束を固く守ることなどが含まれます。わたしたちは末



ジョン・ヘランダーがゴールラインに近づくと，観衆は一斉に立ち上がった。こうして，疲れ果て，よろけて転びながらも，ジョン・ヘランダーは，肉体的な障害を乗り越え，レースを完走し勝利を得た。

日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，神聖な約束を尊ばなければなりません。聖約を忠実に守ることは，幸福になるための条件です。もちろん，この聖約の中には，バプテスマの聖約，神権の聖約，結婚の聖約などが含まれます。

忠実と呼ばれるこの道に，休憩所はありません。その旅は絶えることなく続き，ぐずぐずと時を過ごすことは許されません。旅を始める前の時点で，人生という道は遮るものなど何もない見晴らしの中に広がっているという期待をしてはいけません。その道を進んで行くと，分かれ道や曲がり角にぶつかるということを予想しておかなければならないのです。しかし，西へ行くのか東へ行くのかをはっきり考えていないとしたら，所期の目的地に到達することは望めません。はっきりした目的を持ったうえで，決断しなければならないのです。

ルイス・キャロルの作品の登場人物アリスは，不思議の国で森の中の道を歩いていくうちに，分かれ道にぶつかりました。決断がつかず，歩みを止めてしまったアリスは，突然近くの木に現れたチェシャ猫に，どちらへ進んだらいいか尋ねました。

猫が聞きました。「どこに行きたいのかね。」

アリスは「分からないわ」と答えました。

すると猫が言いました。「それじゃ，どっちの道を選んだってかまわないだろう。」[6]

わたしたちは自分がどこに行きたいのかよく知っているはずです。では，そこへ行くための答え，すなわち忠実さを身に付けているでしょうか。かつてN・エルドン・タナー副管長は，自分自身の心の中にあった疑問に答えて，次のように断言しました。「この世的なものに負けて道をそれるよりは……ここからたとえはだしで歩いてでも，日の栄えの王国に行きたいと思います。」[7]

わたしの好きな次の詩は，だれにも当てはまるチャレンジでもあります。

「仕事に身を入れ，それが身に付くまで頑張りなさい。
始める者は多いが，最後までやり通す人はわずか。
誉れと力，位と称賛
これらはすべて，最後までやり通す人に，時が来れば与えられるもの。
仕事に身を入れ，それが身に付くまで頑張りなさい。
働きなさい，黙々と。汗を流しなさい，ほほえみを忘れずに。
そうすれば，程なく，人生の勝利がやって来る。」[8]

伝道の書に記された，伝道者の勧告を思い出してみましょう。「必ずしも速い者が競走に勝つのではなく，強い者が戦いに勝つのでもない。」[9]「最後まで堪え忍ぶ」者が勝者なのです。[10]使徒パウロも次のように助言しています。「競技場で走る者は，みな走りはするが，賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも，賞を得るように走りなさい。」[11]

そのような精神と決意，つまり古い自分を捨てて真の可能性に近づこうとする心は，人の良心の奥底に秘められています。しかしその道は険しく，多大な努力を要します。スウェーデンのエーテボリに住むジョン・ヘランダーもそのことに気づいた一人です。彼は現在26歳で，身体障害者です。思うように体を動かせないのです。

にもかかわらず，ジョンはかつて，スウェーデンのクングスバッカで開かれたユースカンファレンスで，800メートル走に出場したのです。彼には勝つ見込みなどあ

りませんでした。恥をかき，ばかにされ，あざけられ，笑い者になるのは目に見えていました。恐らくジョンは，遠い昔にはるかな地に住んでおられたある御方のことを覚えていたのでしょう。その御方もばかにされたのではなかったでしょうか。あざけられたのではなかったでしょうか。笑い者にされたのではなかったでしょうか。しかし，その御方は勝利を収められました。御自分にとってのレースに勝たれたのです。ですからジョンも勝てるかもしれません。

そのレースは実にすばらしいものでした。走者は皆，力のかぎりに走り，突進し，ジョンをどんどん引き離して行きます。人々は驚きの目で見詰めていました。あんなに遅れてのろのろ走っているのは一体だれなんだろう。トラック2周のこの競技で，ジョンが1周の半分までしか行かないうちに，ほかの走者は2周目を走っていました。先頭グループの走者たちがゴールに近づくにつれ，緊張が高まりました。だれが勝つだろうか。2位はだれだろうか。だれもが最後の力を振り絞って走り，テープが切られました。群衆は歓声を上げ，勝者が決まりました。

レースは終わったかのようでした。しかし，レースが終わっても走り続ける走者がいました。彼はゴールラインを通過しました。でもそれは1周目のものでした。この若者には負けたことが分からないのでしょうか。コースに残っているのは自分だけだというのに，彼はなおも前を向いて走り続けます。これはもう，彼自身のレースです。勝利を収めるのは彼なのです。席を立つ者は一人もいませんでした。すべての目がこの雄々しい走者に注がれました。彼は最後のコーナーを曲がると，ゴールに向かいました。人々は畏敬と称賛の目でジョンを見詰めています。ジョンの姿に，人生のレースを走り続ける自分自身を重ね合わせて見ているのです。

ジョンがゴールに近づくと，人々は一斉に立ち上がりました。そして大きな拍手がわき起こりました。こうして，疲れ果て，よろけて転びながらも，ジョン・ヘランダーは，係員の計らいで再び張られたテープを堂々と切ったのでした。声援は遠くまで響きました。恐らく耳を澄ましていたなら，偉大な審判員である主が「良い忠実な僕よ，よくやった」（マタイ25：21）とおっしゃる声も聞こえたことでしょう。

わたしたち一人一人は人生のレースの走者です。走者が多いことは慰めでもあります。永遠の審判員がすべてを理解しておられることを知れば，力がわいてきます。一人一人が走らなければならない真理の道は，確かにチャレンジに満ちています。でも，皆さんもわたしも，独りで走るわけではありません。たとえつまずいたとしても，立ち上がってゴールを目指す決意をするとき，家族や友人，指導者という大勢の観衆がわたしたちの勇気をたたえ，拍手を送ってくれます。人生のレースは，短距離の選手が走るような平坦で易しいコースではありません。落とし穴や障害物に満ちています。しかし，次の賛美歌はわたしたちを勇気づけてくれます。

恐るな，われは汝が神　常に汝と共にあり
助け与え，強くして
わが正しき力をもて　汝れを支え，励まさん

主，われに頼るものの霊　敵の手には渡し得ず
地獄，彼に迫るとも
われその霊を見捨てはせず　必ずわれは見捨てず[12]

挫折感を捨て去りましょう。進歩を妨げるような悪習を捨てましょう。すべての人に備えられた賞，すなわち，神の日の栄えの王国での昇栄を求め，それを得ようではありませんか。

4番目は，神聖の道です。ノーマン・カズンズはこう書いています。「死を恐れる必要はない。恐れなければならないのは，自分が大いなる力を賜っていることに気づかぬまま死ぬことだけである。その偉大な力とは，自らの生涯を人のためにささげる自由意志である。もし自分自身が，ほかの人の心に強く迫る何かを与え得たなら，それはいつまでも朽ちないものとして残っていくかもしれないのだ。」

死に打ち勝ち，世の人の罪を贖われた御方，すなわちイエス・キリストは，わたしたち一人一人に御自身が示された聖なる模範に従うよう勧めていらっしゃいます。「わたしについてきなさい」との言葉は，主の優しい教えであり，「わたしに学びなさい」という言葉は，この世を超えて永遠に続く事柄を学ぶようにとの，主御自身の招きです。

ジョン・スローン・ディッキーは次のように書いています。「教育の目的は何かをなす能力と道義心の両面において完全な人を育てることである。なぜなら，能力のみを養い，それに対応する道徳性を育てないのは，悪しき教育だからである。さらに言えば，能力は，道徳性が伴わなければ最終的には滅んでしまうだろう。」

イエスがわたしたちに歩むよう望んでおられる道をはっきりと見極め，この世的なものや悪しき者のたくらみに惑わされないようにするため，決断力と不動の信念，すなわち眼識を得るにはどうしたらよいでしょうか。ヒ

N・エルドン・タナー副管長は支部長の責任をしていたとき，支部長室に学生たちを呼んで，次のような約束をした。「週日に一生懸命勉強し，福音の原則に従った生活をして，日曜日に教会の責任を果たすなら，皆さんは大学をちゃんと卒業できます。約束します。そして，もっと大切なことですが，皆さんは教会に行かない場合よりも，もっと善良で幸福な人間になれると約束します。」

トラーの私設建築技師であり，軍備担当相だったアルベルト・スピアは，あるインタビューの中で「アドルフ・ヒトラーの邪悪な性質を知っていたのなら，どうして彼の建築技師として仕えたのですか」という質問に対し，次のように答えています。

「サタンが自分の肩に手を置いているときに，サタンを認識するのは難しいことですよ。」

N・エルドン・タナー副管長はアルバータ州のエドモントン支部で支部長の責任をしていたとき，大学に入るためにエドモントンへ来た多くの若い男女に対して簡潔で実際的な助言を与えました。タナー副管長は彼らのために一生懸命働きましたが，自分も彼らに多くのことを期待しました。彼はよく支部長室に学生たちを呼んで，教育と教会の目的について話しました。そして彼らに次のような約束をしたものでした。「皆さんは自分の課程を修了したいとほんとうに強く望んでいることと思います。一つのことを皆さんに約束しましょう。週日に一生懸命勉強し，福音の原則に従った生活をして，日曜日に教会の責任を果たすなら，皆さんは大学をちゃんと卒業できます。約束します。そして，もっと大切なことですが，皆さんは教会に行かない場合よりも，もっと善良で幸福な人間になれると約束します。」そして多くの学生が，タナー副管長の約束は文字どおりに，しかも完全に成就したことを，謙遜にまた感謝を込めて証しました。

ジョン・H・グローバーグ長老が子供たちにあてた，優しい手紙には，敬虔な思いと親の愛がよく表れています。「わたしたち皆が，今受けているものにもっと感謝の思いを持ち，もっとよくほかの人々に分かち合えるように願っています。助けを必要としている人がたくさんいます。特に，福音の真理を必要としている人々が数多くいます。福音は従う人にまず光を，そして愛と希望，行動をもたらし，最終的には心の奥深くに抱いている夢をかなえてくれます。」

何年か前，チューリッヒ・ミュンヘン地区の神権指導者の集会に出席した折，グローバーグ長老が子供たちへの手紙に書いた勧告の実例を目の当たりにしました。現在神殿長の職にあり，当時地区代表として働いていたヨハン・ボンドラ兄弟が立って聴衆に話し始めました。彼はその会場の前の方に座っていたクノ・ミューラー兄弟に立つように求めました。ボンドラ兄弟は神権者たちに次のように話しました。「ここに，福音と，わたしたち夫婦にとって大切な意味のあるすべてのことを伝えてくれた宣教師がいらっしゃいます。彼が来てくださらなかったら，わたしは今ごろどうなっていたでしょうか。」それからボンドラ兄弟はミューラー兄弟の方を向き，まるでそこには彼しかいないかのように話しました。「ミューラー兄弟，あなたを愛しています。わたしと家族はいつもあなたのことを思っています。」ボンドラ兄弟もミューラー兄弟も泣いていました。そして出席していたすべての人が感動し，優しい思いに満たされ，涙で目を潤ませていました。

5番目は神のすべての戒めを守る道という包括的なものです。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は，わたしを愛する者である。わたしを愛する者は，わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し，その人にわたし自身をあらわすであろう。」[13]自分独りで

歩かなければならない人はだれもいません。わたしたちは神を仰ぎ見て，助けを求めることができるのです。「人間を超えたより高い力を認めることは，いかなる意味においても，わたしたちの人格をおとしめたりはしません。神への信仰のゆえに，恵みと気高い目的を，自分よりもはるかに優れた神の力に帰するなら，人はより崇高な神意と神の尊い属性を心に描き，人生の苦闘の中にあっても励まされ，鼓舞されることでしょう。……信じ，祈り，求めるものを望むことにおいて，熱心でなければなりません。熱心な祈りを込めたそのような努力に報いが与えられないということはありません。……それこそが信仰の原理の本質なのです。」[14] これはスティーブン・L・リチャーズ副管長の言葉です。

見ていて心和む芝居「王様とわたし」の中に，幸福を探究するわたしたちにとって励みとなる一節があります。主人公のシャム王は床に伏せ，間もなく臨終の時を迎えようとしていました。アンナは息子にこう聞かれました。「王様は善い人になるために，……できる限りの努力をしたの？」

アンナは以前を懐かしむような表情で答えました。「だれでも善い人間になろうとは考えても……思うようにはいかないものよ。でも王様はほんとうに努力されたわ。」[15]

ここで預言者ジョセフ・スミスの言葉に戻ってみましょう。「幸福はわたしたちが存在する目的であり，目標である。したがって，もし幸福につながる道を歩むなら，そこに到達できるだろう。この道とは，徳，正義，忠実さ，神聖の道であり，神のあらゆる戒めを守る道である。」はっきりと示されているこれらの道を歩みましょう。そうするためには，世の中でいちばん短い説教に従うとよいでしょう。それは「正義を選ぼう」という言葉です。

この勧告に従ったジョーという青年がいます。彼は朝6時に起きて，ある体の不自由な子を80キロも離れた病院まで車で連れて行くよう頼まれました。ほんとうは断りたかったのですが，どうしても口に出せませんでした。一人の女性がその子を車の所まで連れて来て助手席に座らせると，涙で声を詰まらせながら「ありがとうございます」と言いました。ジョーは「わたしにお任せください」と告げると，すぐに車を出しました。少し走ると，子供がはにかみながらこう尋ねてきました。「お兄ちゃんが神様なんだね。」

「残念だけど，違うよ，坊や。」

「でも，やっぱり神様だよ。だって，お母さんがぼくの枕もとで神様に祈っているのを聞いたんだ。『この子が病院へ行って足が動かせるようになって，ほかの子供たちと遊べるようにしてください』って。神様に祈っているのを聞いたんだ。お兄ちゃんは神様に代わって働いているんでしょう？」

「時々，そういうこともあるかな。いつもじゃないよ。でも，これからは神様の代理として働こうと思っているよ。」

兄弟姉妹の皆さん。皆さんはいかがでしょうか。わたしも自分自身を振り返っています。わたしたちがそうなれるように，謙遜にまた熱意を込めて祈りたいと思います。□

注

1．*Teachings of the Prophet Joseph Smith*『預言者ジョセフ・スミスの教え』pp.255－256
2．教義と聖約59：23
3．Ⅰコリント10：13
4．ヨブ19：25
5．カール・メニンガー，*Whatever Became of Sin?*『罪がいかなるものになろうとも』参照
6．*Alice's Adventures in Wonderland*『不思議の国のアリス』参照
7．*Conference Report*『大会報告』1966年9－10月，pp.98－99
8．*Favorite Quotations from the Collection of Thomas S. Monson*『トーマス・S・モンソン選集からの引用名句集』p.157
9．伝道9：11
10．Ⅰニーファイ13：37
11．Ⅰコリント9：24
12．『賛美歌』46番
13．ヨハネ14：21
14．「大会報告」1937年10月，pp.35，38
15．リチャード・ロジャース，オスカー・ハマーシュタイン共著，*The King and I*『王様とわたし』

ホームティーチャーへの提案

1．幸福はわたしたちの人生の目的である。
2．わたしたちの前には，幸福に続く以下のような道が続いている。
- ■徳の道
- ■正義の道
- ■忠実の道
- ■神聖の道
- ■神のすべての戒めを守る道

天父は わたしを 御存じです

玉置和子

これまでわたしは，教会の召しとは天父から頂くもので，わたしたちを霊的に成長させてくれるものだと信じていました。それでも数年前に特別な経験をするまで，わたしにはこのことについてのはっきりとした証(あかし)がありませんでした。

わたしは交換留学生として１年ほどユタの高校に通いました。日本に帰ると，教会に入って以来初めての責任に召されました。マイアメイドクラスの会長の責任です。わたしは早速，ユタにいるホストファミリーに手紙でそのことを伝えました。

２，３週間たつと，ホストの「お父さん」から手紙が届きました。手紙にはこう書いてありました。

「あのときは言いませんでしたが，日本に帰る１か月前にうちのワードの監督にこう言われたのです。『和子姉妹をマイアメイドクラスの会長に召したいのですが，あとどのくらいここにいるんでしょうか。』

『和子は来月になったら帰ります』と伝えました。それで召されなかったのでしょう。」

ユタの監督が霊感を受けてわたしに与えようとした同じ召しを，日本に帰って来てすぐに与えられたのです。単なる偶然だとは思えませんでした。この経験を通して，天父は，わたしがどこにいようと，わたしのことをよく御存じなのだと実感しました。たとえユタであろうと日本であろうと，どこであろうとです。当時のわたしが成長するためには特別な責任が必要である，と天父は知っておられたのでしょう。

あれから様々な召しを受けてきましたが，今振り返ってみて驚くのは，それぞれの責任がわたしの人生の中で弱点を克服するために必要であったということです。

たとえ自分にとって困難に思える責任でも，召しが来たらとにかく引き受けるべきだと思います。なぜならその召しはわたしをよく御存じの天父から来たものだからです。□

CHICAGO BULLS

アリス・スプリングス

写真・文／リチャード・M・ロムニー

アリス・スプリングスは，末日聖徒の10代の若者にとって，単なるオーストラリア内陸部への入り口ではありません。ここは彼らにとって生活の中心であり，彼らはこの地で人生のチャレンジに立ち向かうために協力し合っているのです。

オーストラリアのアリス・スプリングスを訪れる旅行者にとって，ここは普通，内陸部へと向かう途中に立ち寄るだけの場所かもしれません。そして，ごつごつとした赤い岩の散在する内陸部こそが，大陸の魂を宿す神秘の世界なのです。

しかし，ここに住む末日聖徒の青少年にとって，アリスは内陸部への入り口以上の価値があるのです。彼らにとって生活の中心である，のどかでのんびりとしたこの小さな町では，ほとんどだれもが顔見知りで，特に末日聖徒の青少年はその行いのおかげでよく知られています。その例を挙げてみましょう。

CTRの指輪

アリスに住む末日聖徒の子供たちの多くが，ほかの教会の経営する私立学校，セント・フィリップ校に通っています。セント・フィリップ校には服装に関して厳しい規律があります。装飾品についても，イヤリングは１組だけ，ブレスレットや指輪は禁止といった規則があるほどです。

指輪禁止というのは，モルモンの子供たちにとっては一大事でした。世界中の末日聖徒と同様，彼らもCTRの指輪をするのが大好きだからです。しかし，以前は，「宗教的意義」のある装飾品は例外とされていたにもかかわらず，彼らは指輪を外すように言われました。

「なぜCTRの指輪が大切なのかを話しましたが，教師の一人は指輪を外さないなら没収すると言い張りました。」ラビニア・アーチボルド（16歳）はそう語ります。

末日聖徒の生徒たちは両親とともに校長に相談しました。校長は，末日生徒の若人が学校でも優秀な生徒たちであると知っていました。そして職員会議で，CTRは「正義を選ぶ」を意味するイニシアルであると説明し，末日聖徒はその指輪をはめてよいという許可を与えてくれたのでした。

先生の代わりに教える

末日聖徒の生徒たちを目立たせているのは，指輪だけではありません。宗教クラス（オーストラリアの学校では必修科目となっている）の中で，彼らはいつも率先して祈りをしますし，また教えられている内容についても，いつもよく理解しています。

ヤスミン・ウェブスター（12歳）はこう語ります。「父と校長先生は友達なのですが，先生はよく父のところに来ては言うんです。『うちの宗教クラスをどうしたものかな。君たちモルモンの子供たちときたら，教師に負けないくらいよく知っているからね。』」

「ぼくらは早朝セミナリーで『新約聖書』を勉強していたのですが，学校の宗教クラスでもちょうど同じことをやっていました」とスティーブン・エックリー（15歳）は言います。「ぼくらは物語を全部知っていましたし，答えも分かっていました。ぼくは，ある先生からクラスでサウロの物語を教えるように頼まれたこともありました。」

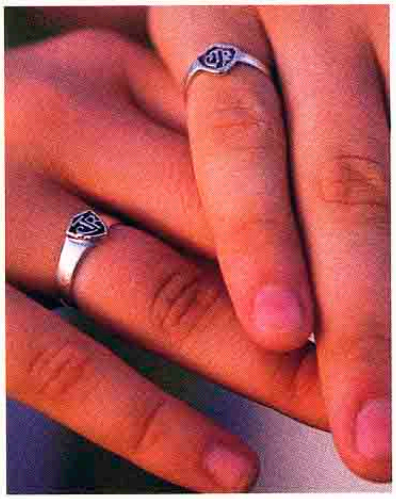
みんな仲間

また，この町の末日聖徒たちは互いに一致団結しています。メラニー・ウェブスター（16歳）の言葉です。「学校で『あの子とつきあったら，あんたとは絶好よ』とか，『あいつはぱっとしないから，話しかけるな』とか言っている子がいます。でもモルモンの子供たちは友達を裏切ったりはしません。教会員の友達のことを絶対に恥じないでください。」

「アリスを訪れる多くの会員たちが，ここの青少年は今まで見た中でいちばん結束が固いと言ってくれます。」ウェブスター家の三女，シェリー（13歳）はそう語ります。

「わたしたちはいつも父から，自分たちがモルモンであることを忘れずに，教会員らしく行動し，教会員らしい服装をして良い模範を示すようにと言われます」と，ヤスミンは言います。

これはマリオット家の少年たちも同じです。ジェーソン（14歳），そしてサイモン（15歳）はとりわけ仲のいい兄弟です。二人は双子のようによく似ています。彼らの家族は，教会員として3代にわたって歴史を重ねてきまし



アリス・スプリングスの末日聖徒の青少年は，その一致と団結の強さで知られている。学校にCTRの指輪をして行く許可を得るときも（左），内陸地で楽しい活動をするときも（右），日曜日の服装に身を包んで教会に集うときも（左ページ），いつも固いきずなで結ばれている。

た。祖母はアリス・スプリングスで最初に教会に入った会員の一人でした。父親は長年支部長を務めました。

「ぼくらは自分の信仰について言い訳はしません」と，ジェーソンは言います。

サイモンはそれに続けて，「たとえぼくたち二人だけしかいないとしても，ぼくらは福音に従った生活をするでしょう。それが真実だと知っているからです」と語ってくれました。

再びともった明かり

アリス・スプリングスの青少年が福音から助けを得るのは，周囲に対する事柄だけではありません。アイバン・マン（18歳）は，求めれば主が助けを与えてくださるという確信を，福音を通して，再び得ることができました。

「ぼくはつらい経験を通して，いろいろと学びました。教会から離れてしまいましたが，今はまた戻って来ました。善くない行いを改めたし，主に対する愛を示そうと努力しています。悔い改めは大変なことですが，でもそれだけの価値はあります。」

アイバンは教会の友達の助けが大きな助けになったと言います。「ここの青少年のみんなや宣教師，そして指導者たちが，ぼくにとっていちばん大切なのは何かを気づかせてくれました。でも，救い主と天父に対する信仰があって初めて，歩み続けることができます。『モルモン書』には，果樹園の主人と僕（しもべ）の話があります（『モルモン書』ヤコブ５章参照）。そこには，良い実がなるように悪い実を切り落とすことについて書かれています。これはぼくの人生を象徴していると思います。主の助けによって，ぼくは悪い実を切り取りました。そして良い実がなり始めていると信じています。」

アイバンは11歳のときの経験について，心からの確信を込めて語ってくれました。「教会に入ったばかりのころでした。皆が礼拝堂にいたとき，明かりが全部消えてしまいました。だれかがぼくに『お祈りをしてみたらどうだい，アイバン』とささやいたので，ぼくはひざまずいて祈りました。『天のお父様，このまま集会を続けられるように，また明かりをつけてください。』そうしたらほんとうに明かりがついたのです。」

「子供は驚くべき信仰を持っているものです。今ぼくは，そんな幼子のような信仰を持てるように努力しています。ぼくの人生は，一度は暗くなりました。でも信じて祈り続けたので，また明かりがともったのです。」

福音という神秘の世界

アリス・スプリングスは内陸部への入り口ですが，ここにある末日聖徒の支部は福音へと通じる入り口です。そしてこの福音は，どんなにすばらしいこの世の景勝地にもまして心躍らせる神秘の世界なのです。□

同性への誘惑

神はわたしたちを男と女に創造されました。わたしたちが性と呼ぶものは，この世に生を受ける前のわたしたちを特徴づけるのに欠くことのできないものでした。

男女間の互いを引きつける力は，創造主によって植え付けられたものです。その目的は肉体の誕生の永続化であり，子育てをはじめ主がその目的を果たすために定められた家族という舞台に夫と妻を引き寄せることです。

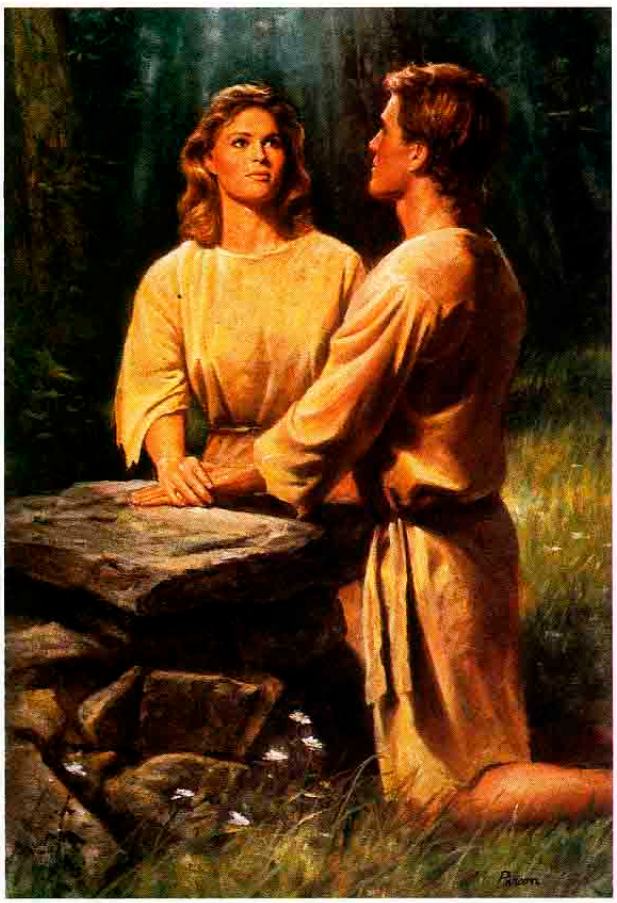
十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

末日聖徒であればだれでも，結婚というきずなを超えたいかなる性的な関係をも神が禁じられたことを知っています。また多くの人は，男が女を見て情欲を抱くのは罪であるという救い主の教えを承知しています（マタイ５：28；教義と聖約42：23；63：16参照）。

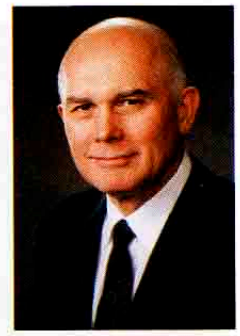
男女間の互いを引きつける力は，創造主によって植え付けられたものです。その目的は肉体の誕生の永続化であり，子育てをはじめ，主がその目的を果たすために定められた家族という舞台に夫と妻を引き寄せることです。これとは対照的に，この生殖の力の使用に関する神の戒めからの逸脱は，重大な罪です。ジョセフ・F・スミス大管長はこう教えています。

「性の結合は結婚生活において合法であり，正しい意図をもって行うならば誉れあり聖とされる行為である。しかし結婚の契りがなければ，性的耽溺（たんでき）は卑しむべき罪であって，神の目には憎むべきものである。」[1]

さて，末日聖徒の中には同性との性行為，もしくはそうした行為に至る可能性を秘めた同性への性愛的な感情のために混乱と心痛を覚えている人がいます。この行為や感情がもたらす宗教的，情緒的問題，そして家族へのチャレンジに対して，教会の指導者や親，そして一般の教会員はどのように対処したらよいのでしょうか。同性に引かれるものがあるとか，性愛的な感情を覚えるなどと若い人たちから言われたとき，わたしたちは何と言っ



ADAM AND EVE KNEELING AT AN ALTAR, BY DEL PARSON



ダリン・H・
オークス長老

てあげたらいいのでしょうか。自分はホモセクシュアルまたはレズビアンであって，「生まれつきそうであることは科学が証明している」と言う人に対して，わたしたちはどう答えるべきでしょうか。わたしたちは，同性への性愛的な感情は正当ではなく，この種の性行為はすべて罪であると主張していますが，それに対して教会員でない人々から，それは不寛容であり無慈悲であるとの非難を受けたとき，どう対応したらよいのでしょうか。

福音の教え

こうした疑問に対してどのような態度をとるべきかは，わたしたちが真実であると信じる福音の教えの中に次のように述べられています。

1．神はわたしたちを「男と女」（教義と聖約20：18；モーセ2：27；創世1：27）に創造された。わたしたちが性と呼ぶものは，この世に生を受ける前のわたしたちを特徴づけるのに欠くことのできないものであった。[2]

2．この世の人生の目的であり，末日聖徒イエス・キリスト教会の目的を成すのは，神の息子，娘をその行く末のために備えさせること，すなわち天の御父と似た者となるように備えをさせることである。

3．わたしたちの永遠の行く末は日の栄えの王国での昇栄であるが，それはイエス・キリストの贖罪（しょくざい）を通じてのみ可能になる。（わたしたちは贖罪を通してのみ『神の前に罪のない者』〔教義と聖約93：38〕となり，その状態を保持することができる。）そして，実際に昇栄にあずかれるのは，神の宮である神殿で永遠の結婚の聖約を交わし，しかもその聖約に忠実であった人だけである（教義と聖約131：1－4；132章参照）。

4．天の御父の慈悲深い計画により，正しいことをしようという望みがあったにもかかわらず自らの過ち以外の理由でこの世で永遠の結婚ができなかった人は，神の戒めを守り，バプテスマやそのほかの聖約に忠実であれば，後の世で永遠の命を得る資格を授けられる。[3]

5．贖罪という清めの力に加えて，神はわたしたちに選択の自由を授けてくださった。善（命の道）と悪（霊の死と破滅の道〔2ニーファイ2：27；モーセ4：3参照〕）を選ぶ力である。もちろんこの世での諸条件によりわたしたちの自由には制限が加えられるが（例えば，ある選択をしてもそのとおりに動けないとか，それを実行する力がないなど），一度責任能力のある年齢もしくは状態に達すれば（モロナイ8：5－12；教義と聖約68：27；101：78参照），いかなる物理的，霊的力もわたしたちから選択の自由を奪うことはできない。

6．この世での生活の目的の一つを果たすために，わたしたちは反対のものによる試しを受け，神の戒めを守るか否かの確認を受けなければならない（2ニーファイ2：11；アブラハム3：25－26参照）。その反対のものを提供するために，サタンとサタンに従う者たちはわたしたちを誘惑することを許された。選択の自由を用いて悪を選び，罪を犯すように誘惑するのである。

7．サタンは「人が自分のように惨めになることを求めている」（2ニーファイ2：27）ので，神の子のための計画を妨害する選択や行動へと人々を執拗（しつよう）に誘惑する。そして，個人が自らの行動に責任を持たなければならないという原則をゆがめ，生殖という神聖な力を乱用するように誘惑し，ふさわしい男女が結婚し子供をもうけることを思いとどまらせ，男性であり女性であることの意味を混乱させようと躍起になっている。

8．これらすべてのことにおいて，肉体を持たない悪魔は，この世の人間が「肉の思い……に従って，永遠の死を選」ぶことによって自分たちの肉体を堕落させるように説得しようとしている。「肉の思いは，悪魔の霊に力を与え，〔人々〕を捕らえて地獄に落とし，悪魔は彼自身の王国で〔それらの人々〕を支配する。」（2ニー

ILLUSTRATED BY DEL PARSON

わたしたちは健康を害している人々に対して思いやりを示さなければなりませんが，それにはHIVに感染している人やエイズにかかっている人も含めてしかるべきです。（エイズの場合，性交渉によって感染したとは限りません。）わたしたちはこうした人々に対して，教会の活動に参加するよう奨励すべきです。

ファイ２：29）

９．大管長会は次のように宣言している。「（１）不道徳な思いや感情を抱くことと（２）異性や同性と不道徳な関係を結ぶこととの間には，はっきりとした違いがあります。」[4] もちろん，不道徳な思いは不道徳な行為に比較して重大さの程度は軽いが，そうした思いも抑制し悔い改めるようにしなければならない。「わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める」（アルマ12：14）からである。不道徳な思い（ならびに重大ではないものの，そうした思いのきっかけとなる感情）は，罪深い行為をもたらす可能性があるからである。

10．神の子であるわたしたちへの神の愛は偉大であるので，最もひどい罪人といえども（言い換えれば，罪を犯した大多数の人は），最後には栄光の王国の一つを受け継ぐという報いを受ける。[5] この世で善良な生き方をし，救いの儀式をほとんど受けながら，永遠の結婚を通してもたらされる昇栄へのふさわしさに欠けていた人は，日の栄えの王国の低い階級に救われるであろう。そこには，永遠の増加はない（教義と聖約131：１―４参照）。

11．問題や選びの連続であるこの世の人生にあって，すべての人は救い主の「互（たがい）に愛し合いなさい」（ヨハネ15：12，17）との戒めの下にある。大管長は最近のメッセージの中でこう述べている。

「わたしたちは互いにもっと親切であるように，もっと優しく，もっと人を赦（ゆる）すように求められています。また，怒るにもっと遅く，助けるにもっと速くあるように言われています。さらに，友情の手を差し伸べ，報復の手を抑えるように求められています。そしてキリストの真の弟子となり，心からの思いやりをもって互いに愛し合うように言われています。それがキリストがわたしたちを愛される方法だからです。」[6]

親切と思いやりと愛は，自分には何の過ちもないにもかかわらず負わされている重荷に耐えられるように，また，自分で正しいと思うことを行えるように，わたしたちを強めてくれるものである。

福音の教えとわたしたちに課せられた義務の応用

こうした教えと戒めと義務は，本稿の初めに提起された質問への答えとしてわたしたちを導いてくれるものです。

わたしたちの教えが，いわゆる「ゲイ・バッシング」（ホモセクシュアルまたはレズビアンの行為にかかわっている人々を物理的に，また言葉で攻撃すること）にかかわる人々を非難していることは明らかです。

わたしたちは健康を害している人々に対して思いやりを示さなければなりませんが，それにはHIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染している人やエイズにかかっている人も含めてしかるべきです。（エイズの場合，性交渉によって感染したとは限りません。）わたしたちはこうした人々に対しても，教会の活動に参加するよう奨励すべきです。

同性による性関係の問題に大管長会の見解を応用してみましょう。まず，（1）ホモセクシュアル（レズビアン）の「思いや感情」（これは抑制し，気持ちを切り換える必要があります）と（2）ホモセクシュアルの「行為」（これは重大な罪です）に分けなければなりません。

ここで注意しなければならないのは，「ホモセクシュアル」や「レズビアン」「ゲイ」という言葉は，ある特定の思いや感情，行動を表す形容詞であることです。したがって，こうした言葉をある特定の状況や具体的な人物を指す名詞として用いることはやめなければなりません。わたしたちの教会には，こうした言葉の使い方を規定する教えがあります。こうした言葉を，「状況」を示す言葉として使うのは誤りです。なぜならそれは，性に関する「行動」というきわめて重要な事柄について，その人が生まれながらにして選択の余地のないある状況に拘束されていることを暗示することになるからです。

もう一つは感情です。中には生まれつき備わっている感情もありますが，ほかはわたしたちのこの世での経験に起因するものです。また，「生まれつきのものとこの世で養われたもの」とが複雑に絡み合って生じることもあります。わたしたちには皆，自分で選んだのではない感情が存在します。しかし，イエス・キリストの福音は，わたしたちには感情に抵抗し，（必要に応じて）それを変形させていく力があると教えています。感情がわたしたちを導いて，不適切な思いを抱かせたり罪深い行動を取らせたりしないためです。

人によって体の特徴は異なります。そして，子供のころまた大人になってから遭遇する様々な肉体的，情緒的圧力に対しての感受性も人それぞれです。感受性もわたしたち自身が選んだものではありません。しかし，その感受性のうえにわたしたちが植え付けた態度や優先順位，行動，そして「生活様式」はわたしたち自身が選んだものであり，自ら責任を取るべきものです。

こうした事柄へのわたしたちの教義的立場を考えるうえで欠かすことができないのは，単なる自由と選択の自由の違いです。わたしたちの自由はこの世の様々な条件によって制限を受けますが，神の賜物（たまもの）である選択の自由は，外的な力の影響を受けません。それは，選択の自由が人の責任能力の根幹を成しているからです。この単なる自由と選択の自由の違いは，感情から思い，思いから行動，行動から習慣という進行の過程を想定するとよく見えてきます。この進行の過程は，ギャンブルやたばこ，アルコールなど，いろいろなものの中に現れてきます。

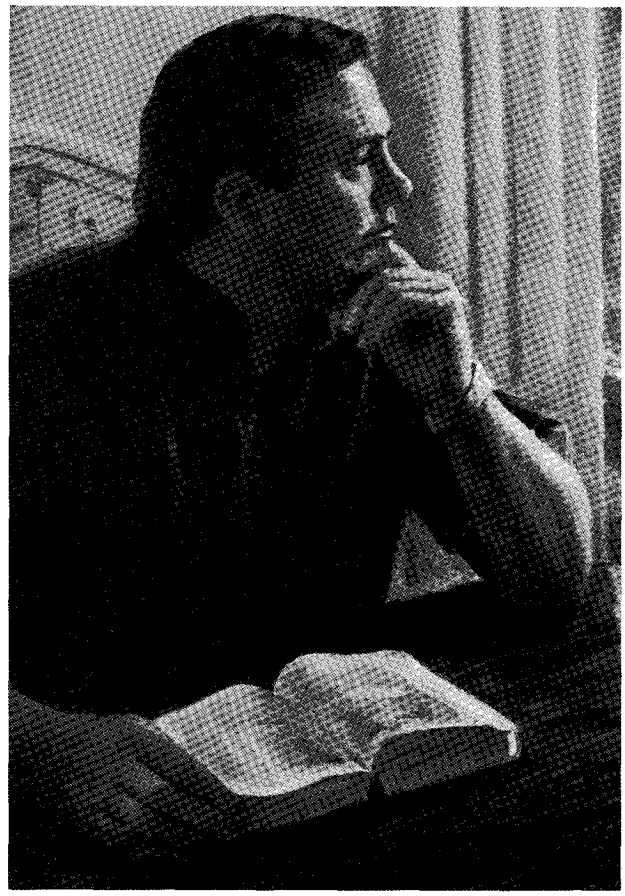
さて，普通の人とは異なった感情を抱く人々がいるように，ある特定の行動や反応，習慣に対して異常な感受性を示す人々がいます。恐らくそうした感受性は生まれつきのものであるか，もしくは個人の選択や過ちによらずに獲得したものでしょう。使徒パウロが次のように呼んだ名前の分からない病気と似ています。「わたしの肉体に一つのとげが与えられた。それは，高慢にならないように，わたしを打つサタンの使（つかい）なのである。」（2コリント12：7）ある人にギャンブルに引きつけられる感情があるとします。普通の人ならちょっと楽しむ程度で止まるのに，その人は何かに取りつかれたようにギャンブルにのめり込んでしまいます。ある人はたばこに魅力を感じ，たばこへの感受性が強くて習慣になってしまいます。また，アルコールに強い魅力を感じる人が，弱さからたちまちのうちにアルコール依存症になってしまうのです。短気や議論好き，強欲などもその例です。

どのケースも（ほかの例も同じですが），単なる感受

性を特定の行動にまで高じさせてしまう感情やそのほかの性格的特徴というものが，遺伝的性質とある程度関連するのではないかと考えられます。しかし，この関連性は恐らく非常に複雑なものでしょう。また，遺伝だと考えているものは，もしかしたら，個人が成長期に特定の影響力に遭遇して獲得した強い傾向にすぎないのかもしれません。しかし，この世でわたしたちに与えられた自由の様々な形態である感受性やわたしたちの持つ人間的弱さがどうあれ（わたしたちはこの世では「肉においては自由」であるにすぎない〔2ニーファイ2：27〕），わたしたちは自分のもてあそぶ思いや選ぶ行動について，選択の自由を行使したことへの責任は取らなければならないのです。わたしはこの対比について，数年前，ブリガム・ヤング大学で次のように話しました。

「わたしたちのほとんどは生まれつき，『肉体に一つのとげ』を持っています。（それは生まれてからできたものもあります。）また，人よりも目立つものもあれば，人と比べて深刻なものもあります。そして，わたしたちは皆，その一つ一つの障害に対して感受性を持っているようです。しかし，その感受性がいかなるものであれ，わたしたちには自分の思いと行いをコントロールする意志と力があります。これはそうでなければなりません。神はわたしたちに対して，思いと行いに責任を持つように言ってこられました。ということは，わたしたちの思いと行いは，与えられている選択の自由によりコントロールできるはずのものであるということです。一度責任能力のある年齢に達したならば，『生まれつきそうなんだから』という主張をもって神の戒めに合致しない思いや行いを正当化することはできません。わたしたちは死すべき肉体から来る弱さが永遠の目標の達成を阻むことのないように，生活の仕方を学んでいかなければなりません。

神はわたしたちの苦難を聖別してわたしたちの益としてくださると約束されました（2ニーファイ2：2参照）。親から受け継いだ〔もしくは生まれた後に形成された〕弱さを克服するための努力が，永遠にわたってわたしたちの力となる霊的な強さを築き上げてくれるのです。したがって，パウロが『肉体〔の〕一つのとげ』を



ILLUSTRATED BY DEL PARSON

現世でわたしたちに影響を及ぼす肉体上の様々なとげについて考えてみた場合，わたしたちにどれだけの自由が与えられているかは不明な部分が多くあります。しかし，これだけは分かっています。すなわち，わたしたちには皆選択の自由があり，それを思いと行いとにおいてどう使うかに対して，わたしたちは自分で責任を取らなければならないということです。これは基本的なことです。

取ってくださるように3度祈ったとき，主はこう答えられました。『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。』パウロは従順な態度で次のように結論づけています。

『それだから，キリストの力がわたしに宿るように，むしろ，喜んで自分の弱さを誇ろう。

だから，わたしはキリストのためならば，弱さと，侮辱と，危機と，迫害と，行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら，わたしが弱い時にこそ，わたしは強いからである。』（2コリント12：9－10）

わたしたちの感受性や傾向〔感情〕がどうあれ，神の戒めにより禁じられていることを行ったり考えたりすることにわたしたちの方で選択の自由を行使しないかぎり，感受性や傾向がわたしたちの永遠の行く末を決めること

はできないのです。例えば，アルコール依存症に対する感受性は，その人から中毒症状を起こさずにアルコールを摂取するという自由を損なうものですが，選択の自由を行使することによってアルコールの摂取をやめ，その結果アルコールによる肉体的な衰弱や中毒症状による霊的な退廃から逃れることができるのです。

……『人間には特定の行動に駆り立てる強い力があって，これは人間の選択の力を超えるものである。したがって，人間は自分の行動に責任を持つことはできない』という主張に気をつけてください。この主張は，イエス・キリストの福音の最も基本的な教えに対抗するものです。

サタンは，この世でわたしたちが責任を持つべきことは何もないと教え込もうとしています。これこそが天上の戦いでサタンが勝ち取ろうとしたものなのです。『自分は生まれつきこうだから』という理由で選択の自由の行使に責任を取ることをしない人は，天上の戦いの結果を無視しようとしています。わたしたちには責任があります。もし反対の主張をするなら，その努力は悪魔の宣伝活動に荷担していることになるでしょう。

個人が責任を取ることは人生の法則です。これは人間の法律にも神の律法にも適用されます。文明社会の中では，自分の衝動をコントロールすることが義務づけられます。同じように神はその子供たちに対して，戒めを守って永遠の行く末を確かなものとするには衝動を抑えなければならないと教えられました。法律はその人が短気だからといって，自分を苦しめる相手に，衝動のままに発砲することを許してはくれませんし，貪欲(どんよく)だからといって，衝動から盗みを働くことも許しません。あるいは，幼児に対して異常な性欲を持っているからといって，衝動から実際にその欲望を満足させることを許してくれません。……

現世でわたしたちに影響を及ぼす肉体上の様々なとげについて考えてみた場合，わたしたちにどれだけの自由が与えられているかは不明な部分が多くあります。しかし，これだけは分かっています。すなわち，わたしたちには皆選択の自由があり，それを思いと行いとにおいてどう使うかに対して，わたしたちは自分で責任を取らなければならないということです。これは基本的なことです。」[7]

科学的洞察

わたしたちの教義的なアプローチとは対照的に，多くの人々はこの同性愛の問題に単に現代科学の立場からアプローチしようとしています。わたしは科学者としての資格を有しませんが，『自らをホモセクシュアルやレズビアンであると自認する人々は生まれつきそうであることが最近の科学上の発見で分かった』とする人々の主張に対して，科学文献による知識と資格ある科学者や医師の助言に基づいてその誤りを立証しようと思います。

わたしたちは人体に関する科学的な発見が加速度的になされている時代に生を受けています。わたしたちは，自分の身体的特徴の多くが親から受け継いだものとして説明できることを知っています。同時に，わたしたちの行動が親や兄弟関係（特に成長期において），また育った地域の文化などの心理的な要素に大きく影響されることも分かっています。ある特定の行動が『生得のものであるか否か』との議論は１世紀もの間続けられてきました。この議論を，『同性に対する特別な感情や行動』というテーマにも適用しようとすることは，この非常に複雑なテーマに対する科学的知識がまだ幼籃期(ようらんき)にあることを物語る一例にすぎないのです。

科学者の中には，人間の行動が遺伝的な影響を受けることを否定している人々がいます。[8] 一方，『性志向への遺伝的な影響については十分な証拠がある』として，その証拠や理論を示そうとする科学者もいます。[9]

もちろんわたしたちも，ある種の癌(がん)や糖尿病のような特定の疾病に対しては，遺伝を裏付けるものがあると知っています。また，人間の行動様式に関連する障害，例えば攻撃性やアルコール依存症，肥満などの傾向の中にも遺伝的性質を認めるとの理論や証拠も出されています。性志向に遺伝的性質が役割を果たすという仮説を立てることは簡単です。しかし，重要なこととして心に留めておかなければならないのは，このアプローチに対して認められている二つの主張です。すなわち，「基本的

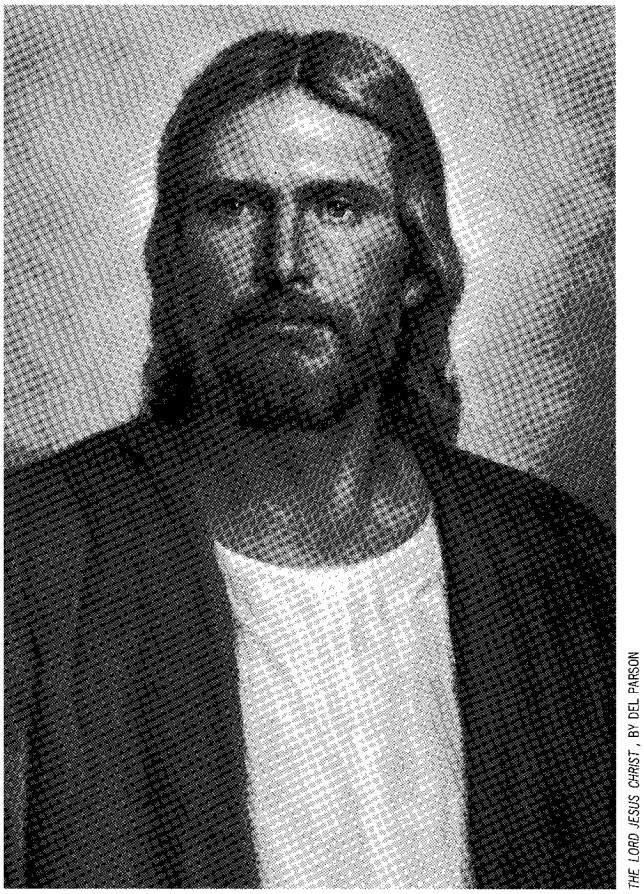
な遺伝性と必然的な遺伝性を混同してはならない……また，恐らくほとんどのメカニズムは，生得的な性質と環境による形成との相互作用であろう」[10]ということです。

性志向が生物学的に決定されるかどうかについては，まったくの否定から完全な受容まで科学者の意見は様々ですが，大まかな点で一致しているのは，現段階で得られる証拠では不十分であり，確固とした結論に至るにはほかの多くの科学的研究を待たなければならないということです。

男性の一卵性双生児で一方が「ゲイ」を自認する56組を調査した結果，その52パーセントの組が他方もゲイであることが分かりました。[11]女性の一卵性双生児の場合も，双方が同性愛者である比率はほぼ同じです（71組中34組で48パーセント）。[12]これらの調査は，自分をホモセクシュアルまたはレズビアンと分類する基となる遺伝的な影響力が何かしら存在することを示すものかもしれません。しかし，たとえそうであったとしても，その影響力が決定要因となっていないことは明らかです。ある著名な科学者はこう述べています。「まったく同一の遺伝子を持ち，同じ両親に育てられたにもかかわらず，一卵性双生児の一方が同性愛者，他方が異性愛者になる確率は50パーセント以上ある。」[13]もう一つ注目しなければならないのは，これらの研究（ほかの研究も後述）の結果は自分から名乗り出た人々だけを対象にしているということです。「起源に関する議論の一致は言うまでもなく，臨床医学者や行動科学者の間に同性愛についての普遍的に認められた定義がいまだに存在しない」[14]という状況の下での科学的結論としては，いささか論拠が脆弱（ぜいじゃく）ではないでしょうか。

新たな知識の分野で最も歓迎されるのは，新たな資料に基づいた証拠です。1993年７月，ディーン・ヘイマー博士が世界の注目を集めました。「染色体領域Xq28上の遺伝子マーカー〔特定可能なDNAの帯〕の遺伝的特徴と18歳以上の男性同性愛者とその親族の性志向との間に統計上重大な関連性」を発見したと発表したのです。言葉を換えて言えば，「Xq28には男性を同性愛に向かわせる遺伝子が含まれているように思われる」[15]ということです。ヘイマー博士が自説に対して最も明確に述べている部分を後に出された著書から引用してみましょう。

「一般人に対するXq28の重要性については，経験による推測を適用せざるを得ない。高い方の推測で言えば，この染色体領域が影響を与える可能性は，最大で男性同性愛者の67パーセントである。これは，厳密に選び出した男性同性愛者ならびにその兄弟がこの染色体領域を有する比率である。低い方の推測の場合，同性愛の多くが環境的な要素によって，もしくは相互に関連する数多くの遺伝子によって生じるとすると，Xq28が男性の性志向を決定するケースはわずか数パーセントにすぎない。そこで，わたしたちの関連性を示すデータと双生児とその家族についての入手可能な研究データから平均を取ってみると，Xq28が男性同性愛者に何がしかの影響を及ぼしている比率は５ないし30パーセントとなる。推測におけるこの大きな比率の幅は，さらに多くの研究がなされる必要があることを物語っている。」[16]



THE LORD JESUS CHRIST, BY DEL PARSON

福音の第一の原則は主イエス・キリストを信じる信仰ですが，イエス・キリストはわたしたちに光と力を与え，わたしたちがこの世での障害を克服し，神から授かった選択の自由を用いて永遠の行く末に導く行動を選択できるようにしてくださいました。

「同性愛者」を自認する人々の「5ないし30%」という数字は，科学が「同性愛」は遺伝的性質に「起因する」ことを証明したとの主張を正当化するにはいかにも低い数字です。ある著名な科学者は二つの不確実な要素を挙げています。

「同性愛の根本となる生得の生物学的傾向が存在するとしてこれまで取りざたされてきた証拠には，すべて不備がある。……同性愛が遺伝によるものであることを示そうとする遺伝研究を確かめてみると，遺伝的に伝わるものが何であるかも，またそれが性志向にどう影響するのかも明らかにしていない。」[17]

コロンビア大学精神医学部のバイン博士とパーソンズ博士は，人間の性志向の生物学的理論への優れた再評価の中で，以下の重要な警告と提案を提供してくれています。

「重要なのは，臨床医学者や行動科学者が性志向の複雑さを理解し始め，社会心理学もしくは生物学からの単純な説明を求めようとする主張に対して抵抗を示しているということである。

性志向の原点を探る理論のほとんどに目立って欠けているのは，自己のアイデンティティーを形成する際の個人としての積極的な役割である。……我々が提唱するのは，遺伝子やホルモンそれ自体が性志向を特定することはなく，ただ特定のパーソナリティーの傾向を強化するという相互作用モデルである。その結果個人と個人を取り巻く環境とが相互に作用して，性志向やそのほかのパーソナリティーの特徴が形成されていく。」[18]

この見方は科学者からの数多くの提言の一つにすぎませんが，特に説得力のあるものです。わたしたちがこの世での状態として真実の原則であると考えている，個人の選択という大切な要素を考慮に入れているからです。

教会役員ならびに教会員の責任

1991年11月14日の純潔の律法に関する通達の中で，大管長会は次のように宣言しています。「正しい性関係は，結婚というきずなの下で夫と妻が適切に表現するときに初めて成立します。これ以外のいかなる性的な交わりもすべて罪であり，それには独身者による私通，既婚者による姦通，同姓愛による行為も含まれます。」

教会役員は以上の指示にのっとり，この律法に背いた人々に悔い改めを呼びかけ，預言者サムエルが邪悪なニーファイ人に教えた原則を思い起こさせる必要があります。「あなたがたは手に入れることのできないものを，生涯をかけて求めてきたのである。あなたがたは，罪悪を行いながら幸福を求めてきた。それはわたしたちの大いなる頭の内にある，あの義の本質に反することである。」（ヒラマン13：38）

人は重大な罪を犯し続けながら，教会員としてとどまることはできません。また罪を奨励する人々に対しても宗紀上の処分が科せられます。もちろん不正な思いや感情に対する宗紀上の処分はありませんが（改善への励ましはある），行動には必ず結果が伴います。だれも「追い出す」べきではないと教えた同じ説教の中で，救い主は弟子たちに「だれであってもふさわしくないままでわたしの肉と血にあずかることを，承知のうえで許してはならない……だから，ある人が……ふさわしくないと分かったならば，あなたがたはその人に禁じなさい」（3ニーファイ18：28－30）とおっしゃっています。また救い主はこうも命じておられます。「しかし，悔い改めなければ，その人がわたしの民を滅ぼすことのないように，あなたがたはその人をわたしの民の中に数えてはならない。」（同31節。モーサヤ26：36；アルマ5：56－61も参照）すなわち，律法に背いた人々が悔い改めの呼びかけにこたえようとしないならば，教会員の群れの羊飼いは神から託された責務を全うするために宗紀上の措置を講じなければなりません。

同時にわたしたちは，罪深い行いと不適切な思いまたは危険性をはらんだ感受性との間の違いを常に明確にしておかなければなりません。わたしたちは，誘惑に抵抗しようとして苦しんでいる人に愛をもって手を差し伸べなければなりません。大管長会は1991年11月14日の通達の中でその模範を示しました。大管長会は「独身者による私通，既婚者による姦通，同性愛による行為」が罪であることを確認したうえで，こう付け加えています。

「このような問題について援助を望む個人や家族は，

ILLUSTRATED BY DEL PARSON

この世の人生の目的であり末日聖徒イエス・キリスト教会の目的を成すのは，神の息子，娘をその行く末のために備えさせること，すなわち天の御父と似た者となるように備えをさせることです。

監督や支部長，ステーク会長，地方部長に助言を求める必要があります。教会の指導者や会員の皆さんは，こうした問題で苦しむ人々に，愛と理解をもって手を差し伸べていただきたいと思います。正しい道に立ち返るようにとの招きを受け入れ，救い主の贖罪と癒しの力（イザヤ53：４－５；モーサヤ４：２－３参照）を身に受けるとき，多くの人がキリストの示されたような愛と霊感に満ちた助言にこたえてくれるでしょう。」

同様に，同じテーマの大会説教の中で，ゴードン・Ｂ・ヒンクレー大管長はこう述べています。「以上の事柄を申し上げたうえで，特に知っていただきたいのは，わたしたちは罪の苦い結果について考えるとき，罪のあるなしを問わずその犠牲者に対してキリストと同じ同情心を感じるということなのです。罪はとがめても罪人を愛した主の模範に従ってください。苦しんでいる人には，いたわりと慰めをもって手を差し伸べ，必要を満たし，問題を解決できるように援助しなければなりません。」[19]

こうした招きや言明にもかかわらず，教会ならびに教会員は今もなおこうした問題に対する立場について誤解を受けています。昨年秋にテレビリポーターとのインタビューで，ある教会役員がこういう質問を受けました。「教会ではホモセクシュアルの人々に対して嫌悪感を抱く雰囲気をなくすためにどのようなことがなされていますか。」わたしは，９年前にも同じテーマのテレビインタビューで，幾つかの報道に対する意見を求められました。「同性愛者は落ちこぼれとでも言うべき人間である」と，教会が教えたり暗示したりしているというのです。そして，「彼らは自己嫌悪に陥っており，そうした状態は教会がもたらしたものである」とも報道されていました。

もっと重大なことは，そうした質問が忠実な教会員の方々からも寄せられているということです。最近届いた１通の手紙にそのことが如実に表れています。

「もう一つ懸念していることは，わたしたちの息子や娘たちが常軌を逸したわいせつな行動を取る者たちであると決めつけられていることです。中にはそのような人々もいるかもしれません。でもほとんどは違います。この若い男女は生き残りたいだけなのです。霊的な生活

をし，家族と教会から離れずに生活したいと思っているのです。特に彼らを傷つけるのは，あのような否定的な言葉が説教壇から語られるときです。あのような説教は抑うつ状態に拍車をかけ，途方もない罪悪感と恥辱と自己嫌悪をもたらすのではないでしょうか。彼らはこの世の生涯の間ずっとそれらに耐えていかなければならないのです。苦難の中にある彼らに対して，キリストの純粋な愛がほとんど示されないことがしばしばあります。このような大きな誤解を受けている天父の子供たちの立場を改善するために，力を尽くしていただけたら幸いです。もし中央幹部の何人かがこの問題についてもっと繊細な心を示してくださるなら，自殺や家族の分裂を回避することができると思います。教会員が彼らを『邪悪な民』と決めつけるために，彼らは同性愛者だけの生活様式に慰めを見いださざるを得ません。この現実に，やるせない気持ちでいる人がたくさんいるのです。」[20]

こうした手紙を見ますと，問題を抱えて苦しんでいる兄弟姉妹との意思の疎通を改善しなければならないのは確かです。あらゆるタイプの問題についてそれが言えます。キリストの教会の会員一人一人には，愛と理解を示し，助けの手を差し伸べなければならないという，明確な教義上の責任があります。罪を犯した人々も，ふさわしくない思いを退けようと苦しんでいる人々も，追放されるべき人々ではなく，愛と助けを受けるべき人々なのです（3ニーファイ18：22－23，30，32参照）。しかし同時に，教会の指導者と会員は，たとえ一部の人々に不快感を生じさせようとも，正しい原則と義にかなった行動を教えるという責任を回避してはなりません。（あらゆる事柄に関してです。）

末日聖徒イエス・キリスト教会の中でホモセクシュアルやレズビアンの傾向や思いを持つ人々のいる場所はないのかと，教会指導者は時々聞かれます。もちろんあります。抱えている問題の程度や，行動を慎み思いをコントロールするためのパターンなど，それぞれ個人差があります。しかし，教会が提供する希望のメッセージとフェローシップの手は，努力するすべての人に同等に与えられます。

「これらの人々は落ちこぼれとでも言うべき人々である」と教会が教えている，などとほのめかしたテレビリポーターに対して，わたしは重要な違いを次のように説明しました。

「そうした傾向に対して〔歯止めをかけようと〕努力している人は，自分を落ちこぼれであると考える必要はありません。さて，これとまったく異なるのが結婚関係以外で行われる性関係です。そうした行動にかかわった人は罪悪感を覚えてしかるべきです。そうした行為をしないようにとの戒めを与えられた神から隔絶されると感じて当然です。わたしは，彼らが教会から隔絶された気持ちになることに対して別に驚きは覚えません。驚くべきことは，神の戒めを教会が反故にすることができると彼らが考えることです。……姦淫の罪を犯して連れて来られた女がいました。（これはわたしたちにとっていい先例となります。）……〔救い主は〕慈悲深く愛に満ちておられましたが，こう言われました。『お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。』主は罪人を愛し，罪を非難されたのです。わたしは教会も同じだと思います。もちろん不完全ではありますが，罪を犯した人々を愛し，罪を非難することをわたしたちは教会員に教えています。」[21]

同性愛の問題を抱えた人々の悩みは独特のものではありません。誘惑は性的なものに限らずいろいろあります。そして，罪を拒む義務はこれらの人々すべてに当てはまるのです。

罪に陥った人々や罪を拒もうとして格闘している人々に教会が提供できる最も大切な助けは，真実の教義を教え，回復された神聖な儀式を執行することにより，教会の使命を果たすことです。福音はすべての人に同じ基準の下に適用されます。その中心を成す真理は救い主の贖罪と復活であり，それを通してわたしたちは不死不滅と永遠の命を享受できるようになりました。この永遠の行く末を全うするために，この世においてまた次の世において，神のすべての子供たちのために定められた神聖な目標が，永遠の結婚です。しかしながら，この神聖な目標は主の方法で達成しなければなりません。例えば，ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「結婚を，同性愛の傾向や習慣を治癒するための一手段と見なしてはいけま

せん」[22]と述べました。

苦しんでいる人々は，キリストと教会を通して助けを得ることができます。こうした助けは断食と祈りを通して，福音の真理を通して，教会への出席や奉仕を通して，霊感を受けた指導者からの勧告を通して得られます。問題によっては，必要に応じて専門的な援助が得られます。もう一つの重要な力の源は，愛に満ちた兄弟姉妹の励ましの力です。だれもが理解しなければならないのは，同性愛の問題で苦しんでいる人々（やその家族）は愛と励ましを特に必要としている人々であり，しかもそのような人々を愛し励ますことは，聖約によって，進んで「互いに重荷を負い合」い（モーサヤ18：8），「キリストの律法を全うする」（ガラテヤ6：2）と言明した教会員の明白な責任であるということです。

福音の第一原則は主イエス・キリストを信じる信仰ですが，イエス・キリストはわたしたちに光と力を与え，わたしたちがこの世での障害を克服し，神から授かった選択の自由を用いて永遠の行く末に導く行動を選択できるようにしてくださいました。わたしたちには次のような約束が与えられています。「あなたがたの会った試錬で，世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはないばかりか，試錬と同時に，それに耐えられるように，のがれる道も備えて下さるのである。」（1コリント10：13）

結　論

科学的な証明と宗教上の教義の見方の違いは，車の動きを観察し，部品の一つ一つを分解して分析していく方法と，メーカーが作ったマニュアルを読む方法との違いにたとえられます。観察と分析からも多くのことが学べるでしょう。しかし，その方法からはマシンの機能や可能性について部分的な知識が得られるにすぎません。マシンの操作と可能性についての完全な知識は，メーカーが書いたマニュアルを研究することによって明らかになります。わたしたちの霊と体についてのマニュアルは聖文です。わたしたちを創造された神によって書かれ，神の預言者が解釈を加えているマニュアルです。聖文は人生の目的についての，また幸福な生活をし永遠の行く末に到達するために培わなければならない態度や思いについての最良の知識の源なのです。

この世の苦難に悩むすべての人々は，ニーファイの詩の嘆きに自己を見いだします。「『おお，わたしは何と惨めな人間なのだろう』と叫ぶ。まことに，わたしの心はわたしの肉のために苦悩し，わたしの霊はわたしの罪悪のために嘆く。

わたしは非常にたやすくまとわりつく誘惑と罪に取り囲まれている。」（2ニーファイ4：17－18）

罪に抵抗する意志と強さを身に付けるには，神を信頼し，助けを求めて祈らなければなりません。ニーファイは苦難の間自分を守り導いてくださった神に感謝しています（20節参照）。そして，「わたしの肉のことで，どうして罪に負けてよいだろうか」（27節）と問うたニーファイは，自分を贖い，「わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください」（31節）と祈るのです。

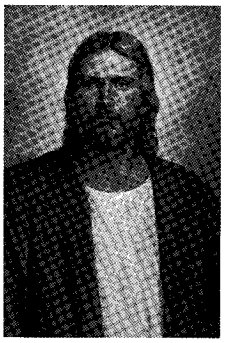
そしてニーファイは，本稿で述べてきた問題を抱え，その解決を求める人々に直接当てはまる言葉で締めくくっています。

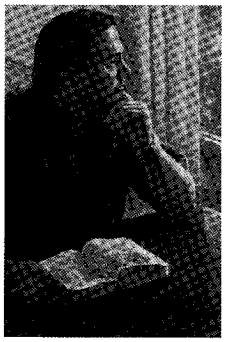
「おお，主よ，わたしはあなたを頼ってまいりました。これからもとこしえに，あなたを頼ってまいります。わたしは肉の腕に頼る者はのろわれることを知っているので，肉の腕には頼りません。まことに，人に頼る者，すなわち肉を自分の腕とする者はのろわれます。

まことに，わたしは，神は求める者には惜しみなく与えられることを知っています。」（34－35節）

わたしたちに完全になるようにと命じられた御方は，血を流すことによりわたしたちが神となる目的を達成する機会を与えてくださいました。わたしたちの永遠の命を得る能力に対する主の信頼は，次の驚くべき招きの言葉に表れています。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに，あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」（3ニーファイ27：27）□

（本稿に関する注釈は，p.25を参照してください。）





注（ダリン・H・オークス「同性への誘惑」p.14参照）

1．『福音の教義』pp.298－299

2．大管長会声明，1912年1月31日付け参照。*Improvement Era*『インプルーブメント・エラ』1912年3月号，p.417。*Millennial Star*『ミレニアルスター』1922年8月24日付け，p.539も参照

3．ロレンゾ・スノー，『ミレニアルスター』1899年8月31日付け，p.547参照。ダリン・H・オークス，Pure in Heart『心の清き者』pp. 61－62に掲載

4．大管長会通達，1991年11月14日付け

5．教義と聖約第76章参照。ダリン・H・オークス，「背教と回復」『聖徒の道』1995年7月号，p.93参照

6．“An Eastar Greeting from the First Presidency” *Church News*「大管長会による復活祭メッセージ」『チャーチニューズ』1995年4月15日付け，p.1）

7．“Free Agency and Freedom” *Brigham Young University* 1987－88 *Devotional and Fireside Speeches*「『選択の自由』と『自由』」『ブリガム・ヤング大学礼拝集会ならびにファイヤサイドにおける話』pp. 46－47。本稿に掲載の編集版は，モンテ・S・ナイマン，チャールズ・D・テート・ジュニア編，*The Book of Mormon*：*Second Nephi*, *The Doctrinal Structure*『モルモン書：ニーファイ第二書，教義上の構成』pp. 14－15に収録

8．R・C・レウォンティンほか，*Not in Our Genes*『わたしたちの遺伝子にはなく』；R・ハバード，E・ウォルド，*Exploding the Gene Myth*『遺伝子の神話を論破する』

9．R・C・フリードマン，J・ダウニー“Neurobiology and Sexual Orientation： Current Relationships” *Journal of Neuropsychiatry*「神経生理学と性志向――現代の関係」『神経精神病学ジャーナル』5 (1933)：149

10．同上

11．J・M・ベイリー，R・C・ピラード“A Genetic Study of Male Sexual Orientation” *Archives of General Psychiatry*「男性性志向の遺伝的研究」『一般精神病理学』48 (1991)：1089－1096

12．J・M・ベイリー，R・C・ピラードほか，“Heritable Factors Influence Sexual Orientation in Women”「女性の性志向に見られる遺伝的要因」『一般精神病理学』50(1993)：217－223

13．D・ヘイマー，P・コープランド，*The Science of Desire*『欲望の科学』p.218

14．W・バイン，B・パーソンズ“Human Sexual Orientation: The Biologic Theories Reappraised”「人間の性志向――生物学的理論を再評価する」『一般精神病理学』50 (1993)：228

15．ディーン・ヘイマーほか“A Linkage Between DNA Markers on the X Chromosome and Male Sexual Orientation” *Science*「X染色体のDNAマーカーと男性性志向との関連」『科学』261 (1993年7月16日付け)：321－327

16．『欲望の科学』pp.145－146

17．W・バイン“The Biological Evidence Challenged” *Scientific American*「生物学上の証拠への挑戦」『サイエンティフィック・アメリカン』1994年5月号，pp. 50，55

18．バイン，パーソンズ「人間の性志向」pp.236－237

19．ゴードン・B・ヒンクレー「敬虔さと道徳」『聖徒の道』1987年7月号，p.52

20．ダリン・H・オークスへの手紙，1994年9月3日付け

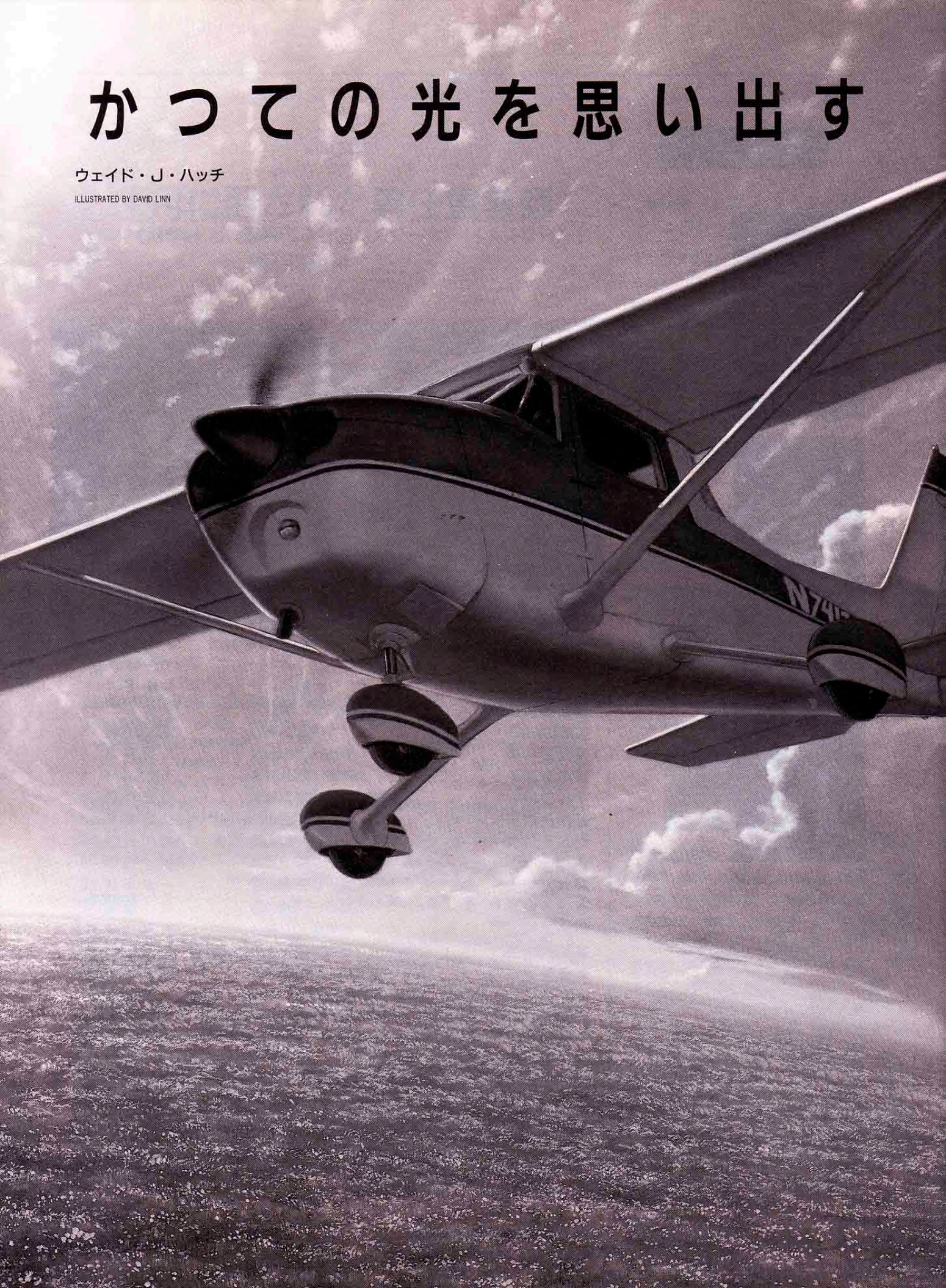
21．ダリン・H・オークスとのテレビインタビュー，1986年12月3日；答えは放映されず；抜粋は“Apostle Reaffirms Churchs Position on Homosexuality”「使徒，同性愛に関する教会の立場を再確認」『チャーチニューズ』1987年2月14日付け，pp. 10，12

22．ヒンクレー「敬虔さと道徳」p.52

かつての光を思い出す

ウェイド・J・ハッチ

ILLUSTRATED BY DAVID LINN



以前，山岳地帯の上空を単独飛行していたとき，飛行機が突然厚い雲に覆われてしまったことがあります。

右側の窓の外には，翼の先端がかろうじて見えるだけです。眼下に広がっていた田畑，マッチ箱のような家々，緑の渓谷を縫う道路の帯は，視界から消えてしまいました。乗っていたセスナ機にはレーダーがありませんでしたし，地上の見慣れた目印ももはや見えなくなってしまったので，わたしは非常にうろたえました。「高度は低すぎないだろうか」「山頂との距離はどのくらいあるのだろうか」と気が気ではありませんでした。方向を見失うと致命的なのです。

突然，「光を感じられた地点まで引き返しなさい」という教官の言葉を思い出しました。わたしは深く息を吸い込むと，飛行機を何とか操って180度転回しました。すると，雲が薄くなり始め，光が見えるようになってきました。眼下には小さなトラクターが田畑で刈り入れをしているのが見えました。わたしはだれにも聞かれることのないの歓喜の声を上げました。

家庭生活においても，胸躍る新たな事柄に取り組むだけでなく，かつて感じた光を思い起こすことが必要です。ある晩遅く，寝支度をして明かりを消そうとしたとき，10代の娘たちの寝室から笑い声が聞こえてきました。部屋に入ってみると，何がおかしくて笑っていたかすぐに分かりました。娘たちは母親から昔の日記を読んでもよいという承諾を受けており，ちょうど妻が15歳だったころのページを読んでいたのです。娘たちは，わたしに質問を浴びせてきました。「初めてママに会ったとき，どんな印象だった？」「ママはどうしてこんなふうに書いたのかしら？」

妻は，わたしが馬に乗って通り過ぎるのを2階の窓から見ていたときのことや，教会でのわたしの様子を日記に記していました。またわたしたちが何人かでコイン投げをして遊んでいたとき，わたしから勝ち取ったコインだけをためたりもしていました。わたしは伴侶となった女性とどのように巡り会い，デートを重ねたかを娘たちに話して聞かせることにしました。まず，自宅前にある大きな柳の木の下に立っている彼女を，初めて見かけたときのことです。青いジーンズをはき，素足で，いたずらっぽい笑みを浮かべていました。また，彼女に襟からひきがえるを入れられ，それが服の中でもがき始めたために，わたしは飛び上がって大声で叫んだことも思い出しました。

そのころの思いが，長い間閉じていた心の宝石箱から次々とよみがえってきました。皆でそり滑りに行った日の夜，彼女の髪にかかった雪片に月の光が反射したとき，彼女がどのように見えたかを娘たちに説明しているうち，わたしは改めて妻に恋をしていました。彼女の手を取って丘の上まで登って行ったときには，指のしもやけのことなどすっかり忘れていたものです。

ちょうど飛行機が悪天候に遭遇したときのように，結婚生活も強い向かい風に見舞われたり，厚い雲の中をさまようことがあります。そのようなとき180度方向を転換すると，再び特別な時間を過ごせるのです。

そのための最良の方法の一つは，どこか静かな場所に座って，記憶をたどりながら書き始めることです。伴侶に初めて出会ったときのこと，結婚しようと決めたときの気持ち，いちばん楽しかったデート，初めて赤ちゃんが誕生したときに感じたことなどを書き留めるとよいでしょう。書いているうちに，わたしたちの心の扉が開いていきます。過去の記憶が次々とよみがえり，伴侶への熱い思いが再び込み上げてくるはずです。

立派な文章を書けなくてもかまいません。ほんの簡単な1行が，あふれるばかりの記憶の宝石箱を開ける鍵になるのです。ちょうど銀行口座に預金をするのと同じように，光をためておくことができるのです。預金の引き出しが必要になる日は必ず訪れます。

わたしたちが妻の小さな日記を読んだその夜，わたしは娘たちとともに預金を引き出し，わたしたちの心を愛で満たしたのです。子供たちは，自分の両親もかつては若かったのだという事実，自分の母親をわたしが愛していることをはっきりと知りました。そのことにより，娘たちは心が安らかになったことでしょう。わたしは娘たちにお休みのキスをすると，2階に上がって眠りに就いている妻のところに行きました。優しく妻を起こし，きれいだよ，と言いました。妻はほんとうにきれいでした。わたしは妻を愛しており，長年一緒に暮らしてこられたことに感謝していると伝えました。

妻は，わたしの額に顔を当ててほほえむと，「夢を見ていたの？」と言いました。

わたしは，答えました。「ちょっとね。光を感じていたんだ。」□

アンデリン兄弟とシーソー

ロバート・ショーゴ

ILLUSTRATED BY SCOTT GREER

クリステンとわたしが見つけたのは，ただの古い板でした。長さが3メートルくらい，幅はちょうど座れるくらいだったでしょうか。荒涼とした土地に日が沈み始め，その板もすでに闇に紛れようとしています。でも，たとえ闇に紛れてしまっても，その板はわたしたちの手作りの遊び場にぴったりのものでした。もちろん砂場もあり，おもちゃのトラックも少しはありましたが，その板があって初めてちゃんとした遊び場になったのです。裏庭にあった大きな石の上に，その古い板を載せると，立派なシーソーになりました。祖母の家の近くにある公園のシーソーみたいです。もちろん，わたしたちのシーソーは，あの公園のものほど高くは上がりませんでしたが，でもこのシー

ソーはわたしたち専用のシーソーでした。

ある日，わたしたちがシーソーで遊んでいると，二人の男性がやって来ました。わたしには彼らが何の用で来たのか分かりませんでしたが，二人は台所でしばらく母と話をしていました。わたしより1歳年上のクリステンの話によると，彼らは教会の人だったようです。わたしたちは教会に行き始めたばかりでした。二人のうちの一人は若い人でしたが，もう一人は白髪で，ひげまで真っ白でした。わたしはそれまであんなに年を取った人に会ったことがありませんでした。彼らが家を出ようとしたとき，その年配の方の男性がわたしたちのところへやって来ました。そして，わたしたちがシーソーで遊んでいるのをじっと眺めていました。

「なかなか立派な板だね。しばらくその板を貸してもらえないだろうか。いい使い道があるんだが。」

わたしたちは二人とも，台所のドアの所に立っている母の方を見ました。母が板をその人に渡すように言ったため，クリステンとわたしはシーソーから下りました。すると，その男性は板をトラックに積み込むと，一緒に来た人と二人で別れのあいさつをして，車で走り去って行ったのです。

「お母さん，あの人たち，ここで何をしていたの。」

わたしは不満そうに尋ねました。

「あの人たちは，わたしたちのホームティーチャーなの。日曜日に行った教会の人たちが，あの二人を送ってくれたのよ。わたしたちが元気かどうか，二人で見に来てくれたの。」

「ぼくは元気だよ。でも，自分のシーソーがあったときの方が，もっと元気だったと思うよ。」

母は指でわたしの髪をかき上げると，こう言いました。「分かってるわ。もうすぐ夕食よ。さあ，中に入って手を洗って。」

普通の子供なら，自分の大好きなおもちゃをだれかに取られたら大騒ぎをするところでしょうが，わたしたちの場合，母親に言われたらそれがすべてだったのです。

その晩，母からあの老人は「アンデリン兄弟」という名前の人だと教わりました。まだ4歳だったわたしの口には，なかなか発音しにくい名前でした。母の話では，アンデリン兄弟は町の反対側に住んでいて，また訪ねて来てくれるということでした。

数日後，わたしが玄関先に出ていると，アンデリン兄弟のトラックがガタガタと音を立てながらやって来ました。

「やあ，ボビー。この前君たちから借りて行った板で，どんなものを作って来たか，見たいだろう。」アンデリン兄弟はトラックを降りながら，そう言うのです。

わたしは彼の後ろについて走りだすと，トラックの後ろまで行ってみました。彼が下ろした板を見ると，緑色のペンキが塗ってあり，しかも，両側には座席と手すりまで付いているではありませんか。真ん中には，表側にも裏側にも，鉄製のリングが付けられています。そのうえ，トラックの荷台には大きな木製のピラミッド型の箱があり，それも板と同じ色に塗ってあったのです。

「お姉ちゃんもいるかい。」アンデリン兄弟が尋ねました。「庭に備え付けておくから，お姉ちゃんを呼んでおいで。」

わたしは急いで台所へ戻り，廊下を駆け抜けました。「お姉ちゃん」と息せき切って叫んで，こう言いました。「アンデリン兄弟があの板を持って来てくれたよ。でもね，でもね，えーと，とにかく来てごらんよ。」

クリステンとわたしが走って外へ出ると，母も出て来ました。アンデリン兄弟は，箱の上にあの板を設置し終えたところでした。

「本物のシーソーだわ。」クリステンがわたしにささやきました。「これ，わたしたちのために作ってくれたのかしら。」

「分かんないよ。お姉ちゃん，聞いてみたら。」

「あなたが聞いてみなさいよ。」

わたしはアンデリン兄弟に少し近づいて，こう尋ねました。「ねえ，アンデリン兄弟。このシーソー，ぼくたちのために作ってくれたの。ほんとうにぼくたちのものなの。」

アンデリン兄弟が答えました。「この板は君たちのものだろう。それに，このじいさんがシーソーでどうやって遊ぶんだい。わしの子供たちは，みんなもう大きくなっておるしな。」

クリステンとわたしは新しいシーソーに乗ってみました。前のものとは全然違います。上がって行くときには，まるで地面から空中へ放り上げられるような気分です。わたしたちが遊んでいる間中，アンデリン兄弟は笑っていました。あの長く白いひげの奥に見える歯で，笑っていることが分かったのです。

以来，アンデリン兄弟が訪ねて来るときには，クリステンもわたしも外で遊んでいるようなことはありませんでした。わたしたちも家の中に入って，アンデリン兄弟の話に耳を傾けました。彼は，ユタで育った少年時代の話や開拓者だった彼のおじいさんの話，そしてわたしたちが通い始めた新しい教会のことなどを話してくれたものでした。

それから何年かたち，アンデリン兄弟は亡くなりました。ある年の12月の寒い朝のことです。わたしたち祭司定員会は，ワードの境界近くにある小さな家を訪ねて行きました。郵便受けには，『アンデリン』と書かれています。ドアの所には，白髪も薄くなりかけた小柄な老婦人が温かいほほえみを浮かべながら，杖をついて立っていました。

定員会のアドバイザーがわたしたちのことをアンデリン姉妹に紹介しました。わたしたちは持って来た小さなクリスマスツリーをプレゼントとして差し出しました。姉妹はわたしたちに話しかけながら，わたしたちの名前を一生懸命に覚えようとしてくれました。アンデリン姉妹は，何年間も教会に来ることができずにいたのです。でも，わたしたちの顔をなかなか覚えられなかった姉妹も，わたしたちの家族のことは知っていました。

「お母さんはどうしてるの」と姉妹が尋ねました。

「元気です」とわたしはいつものように答えました。

「主人は昔，あなたたちが教会に入りたてのころ，あなたたちのホームティーチャーだったのよ。そのころのこと覚えてる？」

わたしは「覚えています」と答え，あの板とシーソーの話をしました。すると，姉妹は自分の両手をしっかりと握り締めて，まるで心の中にそのときの話を何もかも思い出そうとするかのように，わたしにほほえみかけてきました。「あの人は，いつもそんなふうに，人のために善いことをしていたのよ。だからあなたも」と言って，わたしの手を取ると，「教わったとおり，人に対して善いことをするのよ。わたしが今こうして何とか生きていけるのも，あの人がこのワード中の人たちに愛を示し続けてくれたおかげなの。その愛が巡り巡って，今になってわたしのところへ返って来ているのよ」と言うのでした。

わたしはアンデリン兄弟が，主のお命じになったとおりに，夫に先立たれた女性や父親のない子供の世話をしていたことを知りました。しかし，それ以上に，アンデリン兄弟は「与える」精神で人に接し続け，その精神は彼が亡くなっても，またあのシーソーが古くなっても，決して朽ちることはなかったのです。

アンデリン兄弟の初めての訪問以来，わたしは教会について多くを学び始め，福音に対する証も強めてきました。その証は，一人の白髪の老人が古い板を持ち帰ってシーソーを作ってくれた日に芽生えたのです。□

「わたしのようでなければならない」

「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに，あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」（3ニーファイ27：27）

救い主は二つの最も大切な戒めを教えられました。一つは，神を愛することであり，もう一つは「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛」することです。そして，「これらの二つのいましめに，律法全体と預言者とが，かかっている」と言われました（マタイ22：37－40）。使徒パウロはこう述べてます。どの戒めも，「結局『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』というこの言葉に帰する。

愛は隣り人に害を加えることはない。だから，愛は律法を完成するものである。」（ローマ13：9－10）

救い主はどのように人を愛すべきかを示されました。また，天父の計画をすべて受け入れ，従順と犠牲を通してそれを成就されました（モーセ4：2；教義と聖約19：16－19参照）。主の行いの動機は，いつも愛でした。地上で生活された間，主は障害を持つ人を癒し，霊的に飢え渇いた人を教えられました（マタイ8：14－20；9：35－38参照）。人々から愛されていない人を愛し（ヨハネ8：1－11参照），身分や社会的地位にかかわりなく人を祝福されました（ヨハネ4：46－53；ルカ17：11－19参照）。粗末な馬小屋での誕生からゲツセマネとゴルゴダでの孤独な苦悩に至るまで，主は御自分が教えられたとおりの愛に満ちた生活を送られました。

何世紀も後，主は天父とともにジョセフ・スミスに現れ，御自身の教会を回復されました。今日，主は愛をもって主の教会を導き，「〔御〕父が持っておられるすべて」（教義と聖約84：38）を，従う者たちが受けられるように導いておられます。わたしたちのために模範を示してくださったのです。主に対する信仰を通して，わたしたちは主が人々を愛されたように愛することを学び，わたしたち自身の生活の中に律法を完成することができるのです。

愛することを学ぶにつれて，イエス・キリストのようになれる

周りの人々を愛するようになるにつれ，わたしたちは救い主のようになれます。主と聖約したように，心をささげ，「悲しむ者とともに悲しみ，慰めの要る者を慰める」（モーサヤ18：9）のです。

先ごろ，テキサス州ヒューストンのある支部で，キリストのような愛が示されました。ある婦人が夫を亡くして，泣いてばかりいました。だれも彼女を慰められませんでした。そんなとき，一人の友人が訪れ，彼女の髪をとかしてあげ，惜しみなく愛を示しました。このささやかな思いやりの行為により，夫に先立たれた姉妹のやむことのなかった泣き声が静まり，慰めが与えられたのです。彼女は落ち着きを取り戻し，家の掃除をしに来たり，食べ物を持って来てくれたりした姉妹たちと言葉を交わせるようになりました。友人の愛に満ちた心に触れて平安を見いだし，その後穏やかな気持ちでほかの姉妹たちの愛情のこもった奉仕に感謝したのです。

ILLUSTRATED BY LYNNE MILLMANN-WEDINGER

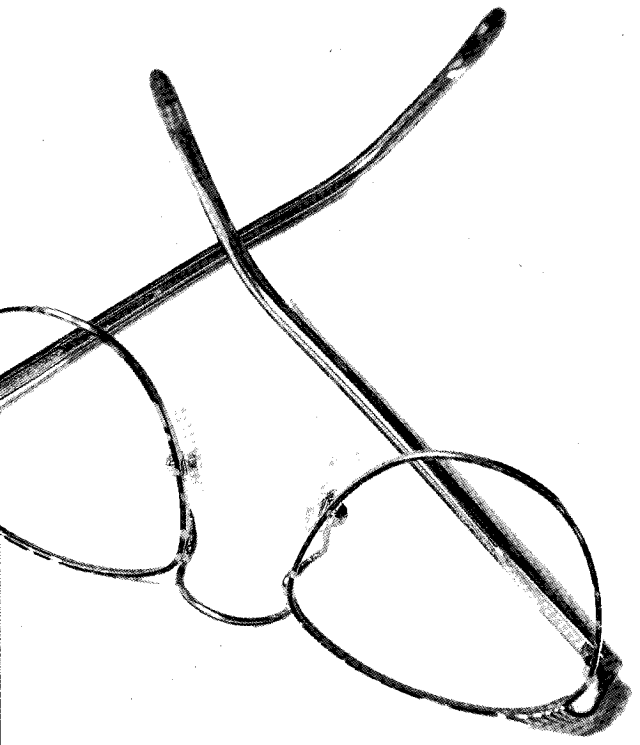
キリストの純粋な愛は天父からの賜物

わたしたちの愛が増すにつれて，神からの賜物としてわたしたちの愛する能力も増します。モルモンはこのように勧告しています。「あなたがたは，御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように……また，御子が御自身を現されるときに……御子に似た者となれるように……熱意を込めて御父に祈りなさい。」（モロナイ7：48，下線付加）

わたしたちが主の模範に従う信仰を持つなら，天父から力を増し加えられて，いっそう完全に，また純粋に人々を愛するようになり，もっと救い主に近い者となれるでしょう。

●だれかを助けようとするとき，何をしたらいちばんよいか知るにはどうしたらよいでしょうか。

●自分の生活の中で，どのようにして救い主の愛を知りましたか。□



目が見えなくとも

ローリー・W・ソーントン

ILLUSTRATED BY ALLAN GARNES; PHOTOGRAPH BY MAREN E. MECHAM

相手の心の内側に目を向ければ，その人のことがもっとよく分かってきます。たとえ目が不自由であってもです。

夜のニュースで恐ろしい場面を目にした友人に，「君は目が見えなくてよかったね」と言われることがあります。その後すぐ，彼らはわたしを傷つけたのではと心配して，決まって謝ってきます。しかし，友人の言うとおりだと思うこともあります。目が見えないということにも，利点が幾つかあるのです。

大きな利点の一つとして，決して外見で人を判断できないことが挙げられます。聖文には，人は顔かたちや背丈，体つきを重要視するが，神にとっては何ものでもないという鋭い指摘が記されています。「人は外の顔かたちを見，主は心を見る」のです（サムエル上16：７）。

まだ糖尿病で視力を失う前の目が見えていたころの話ですが，わたしは外見で人を判断することに罪悪感を抱いていました。特に，中学校時代の女子コーラスの先生のことを思い出します。その先生は，これほど不器量な人はいないと思うくらい不器量な人で，着ている服はいつも地味でした。コーラスの指揮をするときもびくびくした様子でしたし，人を引きつける魅力を何も持ち合わせていないような内気な女性でした。恥ずかしいことですが，わたしたち女生徒はその先生のいないところで，彼女に対する失礼な言葉や残酷な冗談をたくさん口にしたものです。

学年末の近づいたある日，友人の何人かが，自分たちのほんとうの気持ちを書いた無記名のメモを彼女の机の上に置いたらおもしろいのではと考えました。そして，あろうことか，この愚劣な仕事をする役にわたしが選ばれてしまったのです。しかし，このメモを置こうとだれもいない部屋に入ったものの，わたしには実行できませんでした。そのかわりに，今から考えると御霊（みたま）の導きだったと思うのですが，コーラスを一生懸命指導してくれることに感謝し，自分は歌うのが楽しいと書いたメモを急いで書きました。

ちょうどそのメモを机の上に置いたとき，当の先生が部屋に入って来ました。わたしは，その場に凍ったように立ち尽くしました。彼女は机の方に歩いて行き，メモを取って読みました。見ていると，驚いたことに彼女の目に涙がにじみ，やがてとめどなく頬（ほお）を伝ったのです。彼女はそのメモをしっかりと胸に抱き締めると，「ありがとう」と静かに言いました。

彼女の目を見たそのときに初めて，わたしは彼女の姿をありのままに見ました。彼女の心の奥底を直接目にし，即座に彼女の孤独やつらさ，優しい性格を感じ取ったのです。その瞬間から，この先生が大好きになりました。わたしがそれまで好きだったほかの先生たちに感じていたどんな思いよりもはるかに力強い愛を感じるようになったのです。主は，主の御覧になるように，彼女の心を見させてくださったのです。□

ハンガリーの姉妹たち
――愛の奉仕

写真・文／マービン・K・ガードナー

ここは，ハンガリーの首都ブダペストの荘厳な町並みを眼下に見下ろすゲレルト山の頂です。二人の姉妹宣教師が木立の中，人目につかない静かな場所を探しています。

二人は聖文を開き，ある祈りの言葉をタイプしたもののコピーを取り出します。十二使徒のラッセル・M・ネルソン長老が1987年４月にハンガリーに与えた使徒の祝福で，最近になってハンガリー語に翻訳されたものです。ネルソン長老がこの国とその民への豊かな祝福を主に祈ったのは，ドナウ川を見下ろし，一方にブダの丘陵地帯を，そして他方にペストの平原を望む，このゲレルト山の上でした。今，木立の中に敬虔にひざまずいた姉妹

たちが，この祈りの言葉を，母国語で声に出して読んでいます。頭上で，暖かいそよ風が木々の葉をさらさらと揺らし，一点の雲もない青空には太陽が照り輝いています。ひととき，姉妹たちは温かく穏やかな御霊に包まれます。

姉妹たち。二人はその言葉の響きが大好きです。ナジ・エリカ姉妹とパリンカス・ベルナデット姉妹（ハンガリーでは，姓を先に，名を後に言います）に血のつながりはありません。宣教師になってから初めて会ったのです。しかし，二人はどんな血縁の姉妹にも負けないくらい，同じ目的と御霊で強く結ばれています。二人は伝道しながらいつも，自分たちは歴史を築いているんだと感じます。彼女たちがともに，ハンガリーで伝道する最初のハンガリー人専任宣教師という栄誉にあずかっているからです。

パリンカス姉妹は言います。「わたしにとって，わたしたちハンガリー人が現実に福音のメッセージを聞いたり，宣教師として奉仕したりできること自体，信じられない状況です。」実際，このような機会をもたらした一連の出来事は，奇跡的なものでした。およそ40年間，ハンガリーは共産党支配の社会主義国で，宗教の自由はありませんでした。それが，ネルソン長老が奉献の祈りをささげてから１年後の1988年６月に，教会はこの国で公的な認可を受けることができたのです。1989年10月にハンガリーは民主主義国家となり，1990年７月にはブダペストに教会の伝道部が開かれました。ナジ姉妹とパリンカス姉妹は，1992年のほとんど同時期に，一月足らずの間隔でバプテスマを受けています。

「ネルソン長老が，確かに神の御手にある器として，この祝福を与えたのだとわたしは信じています」とナジ姉妹は言います。「今日もう一度これを読み返しながら，現在伝道しているすべての宣教師と，これから，わたしたちの後に続く全宣教師のことを考えていました。この祈りは，彼ら全員について語られたものだからです。青少年のことも思いました。ネルソン長老が預言した，この地のあちこちにできるワードやステークのことと，『神よ，ハンガリー国民を祝したまえ』という言葉で始まるハンガリー国歌についても考えていました。神は確かにハンガリー国民を祝福してくださいました！」

「もちろん，ハンガリーで伝道しているのは，わたしたち末日聖徒だけではありません」とパリンカス姉妹は言います。「ここには，ほかにも実に多くの教会から宣教師が来ています。それが，ハンガリー人には難しいことなのです。すべてが禁じられていた長い時代が終わって，今では宗教に関しては完全に自由になりました。人々は，いきなりあまりに多くの教会に接して，多少恐れと混乱を感じ，圧倒されているのです。多くの人は多分に内向的で，決断を避ける傾向があります。

だからこそ，わたしたちの福音の広め方がよりいっそう大切なのです。もしキリストのような愛をもって伝道し，彼らを大切に思っていることと，ほかの動機で伝道しているのではないことを示せれば，心を動かされない

人はこの世にいないはずですから。」

パリンカス・ベルナデット姉妹――「何かが欠けていました」

この二人の姉妹も，求道者たちが感じている宗教上の混乱と不安を実際経験しました。パリンカス・ベルナデット姉妹は，イオシフ・スターリンが模範的な共産主義の町として建設したドナウバロスという工場街の出身です。何年もの間，町にはまったく教会がありませんでした。「両親は神を信じていません」とパリンカス姉妹は言います。「でも，なぜかわたしは神を身近に感じ，神がわたしを愛しておられると感じていました。

自分がこの地上で何をしているのか，人生の目的は何か，どうしてほかの国でなくてハンガリーに，しかも，前や後の時代ではなくこの時期に生まれたのか，よく考えたものです。わたしの生活には何かが欠けていましたが，それが何なのかはよく分かりませんでした。」

20歳になるころ，ベルナデットが働いていた事務用品店に二人のアメリカ人宣教師がやって来ました。「わたしと同僚たちは最初から，この二人の青年がほかの人々とは違うことに気づきました」と彼女は回想します。「彼らの目の輝きには，わたしの好奇心をそそり，彼らが何者で，ここハンガリーで何をしているのか知りたいと思わせるものがありました。彼らが何かわたしの知らない，そして知る必要のあることを教えてくれるような気がしたのです。」

ベルナデットと同僚の一人は，最初のレッスンを聞く約束をしました。友人はすぐに興味を失いましたが，ベルナデットは次の日曜日に一人で聖餐会に出席し，１か月後の1992年８月22日にバプテスマを受けました。それから１年半後，彼女は専任宣教師になったのです。彼女の家族は，ほかにまだだれもバプテスマを受けていません。

ベルナデットの両親は，彼女がバプテスマを受けたことも，伝道に出たことも快く思っていません。「両親を傷つけてしまいました。何度も説明しようと努力しましたが，わたしがしていることも，どうしてそうしているのかも彼らには分かってもらえないのです。宣教師になろうと決心したとき，わたしの最初の目標は，どうにかして両親をもっと教会に近づけることでした。今では，人は皆，それぞれ神に至る自分自身の道を歩まなければならないのだし，人によっては長い時間を要するのだと考えるようになりました。そして，毎週両親に手紙を書き，いつも彼らのために祈っています。」

両親からの便りはありませんが，ベルナデットは故郷の支部の会員たち，特に青少年からの手紙にとても感謝しています。それに，伝道部からもたくさんの助けを得ています。彼女にとって最初の巡回宣教師は，何と１年半前にドナウバロスで彼女にバプテスマを施した宣教師だったのです。「わたしにバプテスマを施したとき，彼はまだ新米の宣教師でした」と彼女は言います。「それ

ハンガリーで伝道する初めてのハンガリー人専任宣教師の一日。朝早く，ナジ姉妹とパリンカス姉妹は，母国に与えられた使徒の祝福を静かに読み返す（左ページ，左）。その後，ホルバス家族に福音のメッセージを教えた（左ページ，右）。姉妹宣教師にあいさつしているホルバス・イルザベート姉妹は，1990年にバプテスマを受けた初期の改宗者の一人（左）。

が，今度はわたしが新米で，彼はベテランになっていました。彼と同じ時期に伝道できたことをとても誇りに感じたものです。」

ナジ・エリカ姉妹――200万人都市での再会

友人から宣教師の話を聞くように勧められた1992年4月，20歳のナジ・エリカ姉妹は家族とニイレジハーザの町に住んでいました。信心深いクリスチャンだったエリカの父は，家族に神について教えていましたし，その日も家族全員で自分たちの教会に集ってきたところでした。「でも，二人の長老が玄関にやって来てあいさつしたとき，両親もわたしたち8人の子供も，彼らの持つ御霊(みたま)の力によってこの上ない幸福感に包まれたのです。」

御霊の力によって，宣教師たちは「わたしたちの友達になりました」とエリカは言います。「彼らがわたしたちに，つまり弟たちや妹，わたしたち年長の子供たち，そして両親に愛を示してくれたこと，それに自分たちの両親について語るとき，あふれるばかりの愛と尊敬の念をもって語る様子に，強い感動を覚えました。もしいつか，どうにかして，こんな大きな愛をほかの人々に示すことができたらどんなにすばらしいだろうと考えさせられました。やがて宣教師たちが神とイエス・キリストについて語り始め，すばらしい話し合いの時間を過ごすことができました。」

2回目のレッスンの後，突然家族と宣教師たちとの連絡が絶えてしまいました。まず長老たちの一人が転任し，続いてエリカの家族が急にブダペストに引っ越すことになったからです。「毎晩わたしは，自分なりに最善を尽くして祈る努力を続けました。宣教師たちが教えてくれたことについて話せる人が見つかるように，神様にお願いしました。」

ブダペストに引っ越してから2か月たったある日のことです。それはエリカにとって，やることなすこと何一つうまくいかないひどい日でした。まず，バスに乗り遅れてしまいました。そのために，雨の中，かなりの距離を歩かなければなりませんでした。やっと地下鉄の駅にたどり着くころには，かなり落ち込んでいました。「そんな状態で地下鉄の電車を待っていたとき，突然二人の長老たちがいるのに気がついたのです。しかも，その一人はニイレジハーザでわたしたちを教えてくれた長老ではありませんか。信じられませんでした。人口200万人以上もいる町でですよ。」

家族はすぐにレッスンを再開し，最初に宣教師と会ってからちょうど5か月後の1992年9月13日に，まずエリカが一人でバプテスマを受けました。続いて同じ年の12月までに，10人の家族のうち7人がバプテスマを受けました。エリカはほかの3人も後に続くだろうと確信しています。「手紙を書く度に，霊的ですてきなメッセージを送るようにしていますし，彼らは順調に進歩しています」と彼女はほほえみます。

バプテスマから1年後，エリカはハンガリーへの伝道

ブダペストのバスの運行経路と時間表を調べてから，再び大きなアパートに戸別訪問に出かける（左）。一人の女性が『モルモン書』を受け取り，レッスンの約束をしてくれた（右ページ，左）。彼女たちは，伝道の召しを受ける前から，「母国の人々(みんな)を教えるように召される」と御霊(みたま)によって知らされていた。二人ともこの機会をとても喜んでいる。

の召しを受けました。「母国語で母国の人々に伝道する召しを受けることができ，光栄に思いました。でも，自分がハンガリーで伝道する最初のハンガリー人となるのにふさわしいだろうか，また彼らが必要としているものを提供できるだろうか，という不安もありました。そのことについて祈りました。するとその夜，多くの特別な霊感を受けることができました。神がわたしと家族を愛してくださっていることを知りましたし，神をとても近く感じられました。」

愛の奉仕

二人の姉妹たちが伝道の経験を述懐するのを聞いていると，主が彼女たちの働きに対し豊かに祝福しておられるのがよく分かります。パリンカス姉妹はこう言います。「新しい宣教師として最初の町に赴任したとき，同僚と計画表を見てみると，全然予定が入っていませんでした。わたしは『まあ，これからどうしたらいいの』と言ったものです。でも，とにかく出かけて行って，一生懸命働きました。今では，計画表に予定の入っていない日があっても，『大丈夫。3，4人の人を見つけてレッスンすればいいのよ』と言えます。それから，祈りの中で，その義にかなった望みをかなえてくださるように主にお願いするのです。もしわたしたちが真の信仰をもって真心から祈るなら，御心にかなうものであるかぎり必ず主が助けてくださることを，経験を通して学んだのです。」

人が生活を変え，バプテスマを受けるのを見る喜びに勝る報いはありません。「宣教師になって最初のバプテスマを経験したとき，どれほどうれしかったか言葉では言い表せません」とパリンカス姉妹は言います。「まさに天にも昇るような喜びを感じました。このすばらしい人が主の教会の会員になり，わたしも含めた多くの会員がこの人から様々なことを学んでいけるのだと考えると，何とも言えないくらいうれしかったのです。」

この二人の姉妹たちの見るかぎり，ハンガリーにおける福音の伝道は始まりであって，同時に，ある終わりも意味しています。「福音によってわたしたちハンガリー人は新たに一から始めることができます」とパリンカス姉妹は言います。「それは神と福音について知り，わたしたち自身についても知る機会となっています。もしかしたらこれは，人々がだれも愛せず，だれからも孤立する必要を感じてきた時代の終焉かもしれません。」

「福音によって，大きな壁が崩れ落ち，門戸が開かれつつあります」とナジ姉妹は言います。「長い間，わたしたちは人生で起こる出来事から自分を守るために，自分たちの周りに壁を築いてきました。そのために愛や兄弟愛が欠けていました。でも福音は，わたしたちがその閉ざされた門戸を開け，愛と奉仕の生活を送れるよう助けてくれるのです。」□

音楽の力

タマラ・リーサム・ベイリー，クリスティー・ジャイルズ
ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH

目に涙が込み上げてくるような歌を聞いたことがありますか。あるいは知らないうちにリズムに合わせて足を動かしていたことがありますか。見えない聴衆に拍手喝采される中，想像上のマイクの前で力を込めて歌ったことがありますか。わたしたちの生活の中には音楽が満ちあふれています。どんな歌詞もメロディーも，よかれあしかれわたしたちの心に影響を与えます。

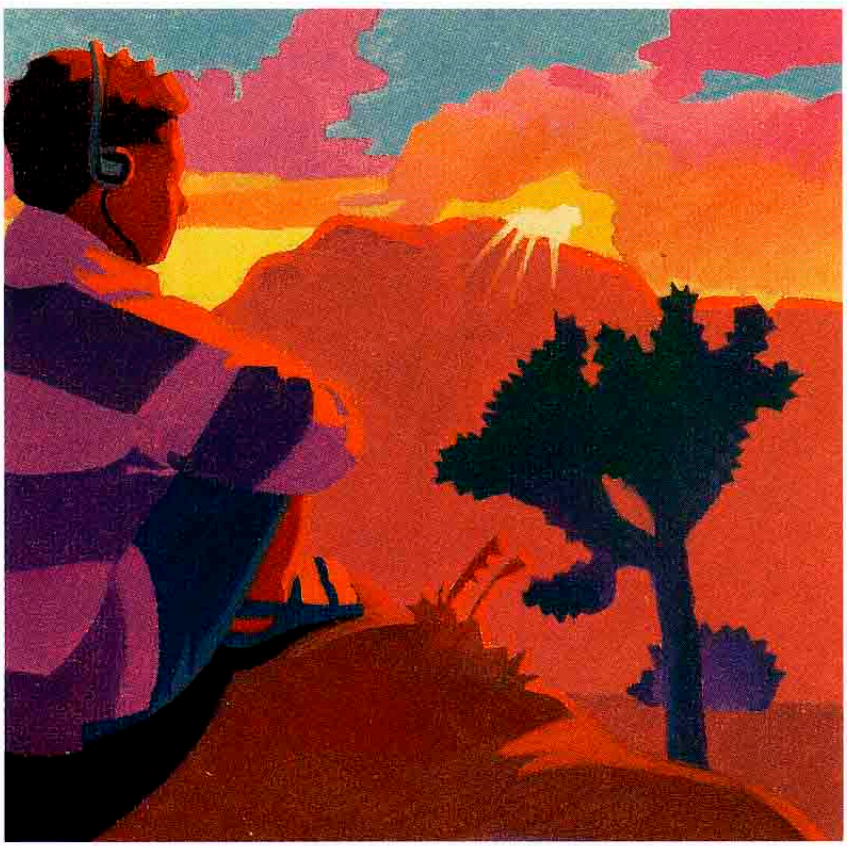
「音楽を通して，人の自己表現能力は，こまやかさにおいても強さにおいても，言葉の限界を超えます。音楽は人の心を高揚し，霊感を与えるためにも，堕落と破壊のメッセージを伝えるためにも用いられます。」（『神権会報』1973年8月号，p. 3）

音楽は，怒りやいらだちのときにわたしたちの心を静めてくれます。また逆に，不満や緊張を助長することもあります。

音楽には，御霊を家庭にもたらす力がありますし，追いやる力もあります。

音楽は，創造力をかき立ててくれます。芸術家の中には，音楽を聴きながら創作活動を行う人が多いようです。音楽が作品の質を高めてくれると感じるからです。クラシック音楽を静かに流すことで，その日学んだ情報を記憶にとどめやすくなるという研究結果も出ています。（今度大切な試験があるときに試してみてください。）

これに反して，音楽は悪い思いをかき立てる力もあります。「でも，わたしは歌詞を聞かないから大丈夫」という人がいるかもしれません。調査によると，人間の脳は自動的に見聞きしたあらゆるメッセージを取り入れるということです。メロディーとセットになった歌詞には特に大きな影響力があります。それらが脳の中のフィルターを通り抜けて，知らず知らずのうちに潜在意識の中に蓄えられていくからです。



どんな音楽を聴くべきか

どのような音楽を聴くべきかの判断は，時として難しいことがあります。今聴いている音楽が，自分の情緒と霊性にどのような影響を与えているかを知るために，次のように自問してみてください。

■その音楽を聞いているときに霊的な変化を感じたでしょうか。御霊はしばしば感情を通して人に働きかけます。その音楽が，自分にどのような気持ちを感じさせるかということに注意を向けてください。人生は感情的な浮き沈

みの連続ですから，時に気持ちが沈んでしまうことはだれにでもあります。ただ，聞く度に憂うつになったり，欲求不満になったり，怒りを感じたりするような音楽は健全なものとは言えません。人を高める音楽というのは，自分の置かれた状況を，「輝かしく」希望に満ちたものとして見るよう励ましてくれるはずです。一方，人を堕落させる音楽には，「暗い」憂うつな気持ちが付き物です。

■その歌の歌詞は，家族や友人に何の違和感もなく話せる内容でしょうか。その歌を自分の尊敬する人，例えば，セミナリーの教師，母親，あるいは監督と一緒に聞いても違和感はありませんか。

■演奏しているグループは自分と同じ標準を奨励しているでしょうか。そのグループの名前，アルバムのジャケット，ビデオ，ステージでの評判，衣装はどうですか。彼らの主張に感銘を覚えますか。そのグループの音楽を聴くと，どのような態度になったり，想像をしたりするでしょうか。その音楽は自分の周囲の人々にどのような影響を与えていますか。その音楽はキリストの教えに反する思いや行い，感情を助長しませんか。

音楽の好みを変える

自分の聴く音楽の標準を変えようと決心した人のために，移行期間をスムーズにする秘訣を紹介しましょう。

■質の高い音楽だけを聞く。「自分の集めた音楽をじっくり見直してみてはいかがでしょうか」と十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老は勧めています。「そして，最良のものだけを残すのです。自分が吸収するもの，生み出すものに関し，選択眼を持つよう心がけてください。こうしてえりすぐった音楽はあなたの一部となるでしょう。」（*Ensign*『エンサイン』1974年1月号，p.27）

■自分の標準を守る。いったん標準を設定したら，その標準と相いれない音楽は，ほんの少しであっても，大目に見ないでください。キンボール大管長はこう述べています。「罪のないふさわしい状態に自分を保つには，積極的に，しかもはっきりと悪の領域から遠ざか〔る〕ようにしなければならないことは明らかである。」（『赦しの奇跡』p.241）

■音楽について両親と話し合う。もし両親があなたの聴く音楽のことで心配するようであれば，自分の音楽の標準について両親と話してみることです。両親は自分たちの聴く音楽に対してどのような評価の仕方をしているのか，意見を求めてください。そしてお互いの標準について同意できる点を見つけるようにしてください。両親の聴く音楽に耳を傾けてみるとともに，自分の聴く音楽も聴いてくれるよう勧めてみてください。

■御霊を求める。悪いものを取り除けば，次は良いものだけで自分のコレクションをいっぱいにすることです。聖文を読み，祈ることで御霊を求めてください。そして，御霊をさらにもたらす音楽を聴きましょう。

■選択の幅を広げる。もし，良い音楽を普段聴く音楽の中に見いだせないのであれば，新たな分野の音楽も試してみてください。ジャズからレゲエ，クラシックに至るまで，あらゆるジャンルの音楽の中から良い音楽を見いだすことです。いろいろな音楽に接することで，あなたの音楽の好みももっと変化に富んだものになるはずです。

■節度のある音量で聴く。コンサートの後で，耳鳴りがしたり，小さな音を聞き取るのに苦労したりすることはないでしょうか。もしそうだとすれば，聴力障害を起こしている可能性があります。100デシベル以上の騒音は，音を神経に伝える，内耳の繊毛を平たくします。この繊毛は普通ならやがて正常な状態に戻るのですが，何度も大きな音に触れていると平たくなったまま永久に戻らなくなってしまうことがあるのです。ロックコンサートの場合は，120デシベルの音を出すことが多いのですが，ステレオのヘッドホンはもっと高いデシベルの音が出ます。これは，消火ホースのノズルを耳の中に押し込んでスイッチを入れるようなものです。音楽のボリュームを下げ，コンサートのときには耳栓を使うようにしてください。

■祝福は，適切な音楽を選ぶことによってもたらされます。主もこのようにおっしゃっています。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに，義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして，彼らの頭に祝福が注がれるであろう。」（教義と聖約25：12）□

これぐらい

広大な全宇宙で
いちばん大切な真理を，
4歳の弟が
教えてくれました。

ラドーン・リズンメイ
ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH

4歳の弟が，こぼれ落ちそうなほどたくさんのおもちゃを抱えて，居間に入って来ました。わたしはふかふかのいすにもたれて，雑誌を読んでいます。いつもなら自分の部屋で遊ぶように，弟に言ったでしょう。弟がそばにいると騒がしいうえに，後で掃除しなければいけません。でも，どうせ自分の部屋で遊びたがらないのは分かっています。勝ち目のないけんかを始めるのはよそうと思いました。

弟は部屋の真ん中に動物のぬいぐるみを置くと，一つ一つ取り上げてはそれぞれの鳴き声を

大好き

まねして遊び始めます。わたしが笑うと，弟はしかめっ面をして見せます。

わたしは雑誌を下に置くと，「ブレーク，こっちに来て」と言いました。弟がわたしのひざに上ると，わたしは彼を抱き締めてこう言いました。「大好きよ。」いつの間にか，弟のお気に入りのゲームが始まっています。

「ぼくの方が，お姉ちゃんのことをもっと好きだよ。」わたしを抱き締め返して弟はそう言います。

「そんなはずないわ。わたしの方よ」と，さらに強く抱き締めながらわたしは言い張ります。

ブレークはわたしのひざから下りて，思いっきり自分の両腕を広げると，力んだ声でこう言いました。「お姉ちゃんのこと，これぐらい大好きだよ。」

わたしも両腕を広げながら言います。「わたしはこれぐらい好きよ。」それはブレークのより大きくなりました。わたしの腕は彼の2倍近くあったからです。

「ぼくはこの部屋の大きさぐらい好きだよ。」

「わたしはこの家の大きさぐらい好きよ」と言い返します。

「世界の広さぐらい好きだよ。」

「全宇宙の広さぐらい好きよ。」わたしは勝ったと思いました。なぜなら弟は宇宙という言葉を知らなかったからです。

「イエス様がお姉ちゃんのこと好きなのと同じくらい，大好きだよ。」弟はそう言い切ります。

弟の勝ちだ，それには勝てないと，わたしはほほえみながら思いました。わたしは，ほっぺにキスしてちょうだい，とブレークに言います。弟のキスはかわいらしくてちょっと湿ったキスでした。

弟が思いついて，わたしが思いつかなかったことを，わたしは不思議だとは思いません。「ひかり」のクラスの子供たちがよく知っていそうなことを，わたしたちはよく忘れるようです。イエス・キリストがわたしたちを愛してくださっているということを。□

B. McKAY

闇と月

フランク・アウトセルト

1969年1月10日，人生の転機は不意に訪れました。

生活を変えようなんてまったく思っていませんでした。わたしは活発な教会員ではなく，酒もたばこも大好きでした。実のところ，アルコールがないとやっていけないという状態にまでなっていたのです。酒仲間との楽しい時間も好きでした。酒を飲むと，試練に対処するのが容易になるような気がしていました。アルコールで感覚がまひしていたせいでしょう。

しかし1月のあの日，わたしは短い時間のうちに自分の人生を顧みることになったのです。

仕事で，刃渡り12センチの包丁を使ってベーコンの塊から皮をはいでいたのですが，過って太ももを深く切ってしまいました。戸口の方に歩きだし，ベルトを外し，刃物を抜こうとしましたが，何もできないうちに気絶してしまいました。同僚たちがわたしを荷積み場まで運び，会社のトラックの荷台に乗せると，病院へ急いでくれました。足からは大量に出血しています。一緒に荷台に乗り込んだ人が，止血のため傷口付近を強く押さえてくれていました。

病院へ向かう途中，でこぼこした踏切に差しかかったとき，この付き添いの男性が地面に投げ出されてしまいました。彼がもう一度体勢を整え，わたしの体を支えられるようになったころには，「きっと助からないだろう」と二人とも感じていました。意識はしっかりしているものの，体が極度に冷えてきます。闇が迫って来るのを感じ，実際，目の前が真っ暗になりました。とても恐ろしくなりました。

「わたしはこのまま死ぬんだ。」そう悟りました。妻と子供たちのことを考えました。「今，死ぬわけにはいかない。やり残したことが多すぎる。」

次の瞬間，もし命を助けてもらえるなら，悔い改めて人生をやり直そうと決心しました。そう決心するやいなや，あんなに冷たかった体が温かくなってきました。闇は去り，わたしはうとうとと眠りに就きました。後で聞いたのですが，手術中に何度か死にかけたのだそうです。しかし，医師たちはわたしの命も足も救ってくれました。

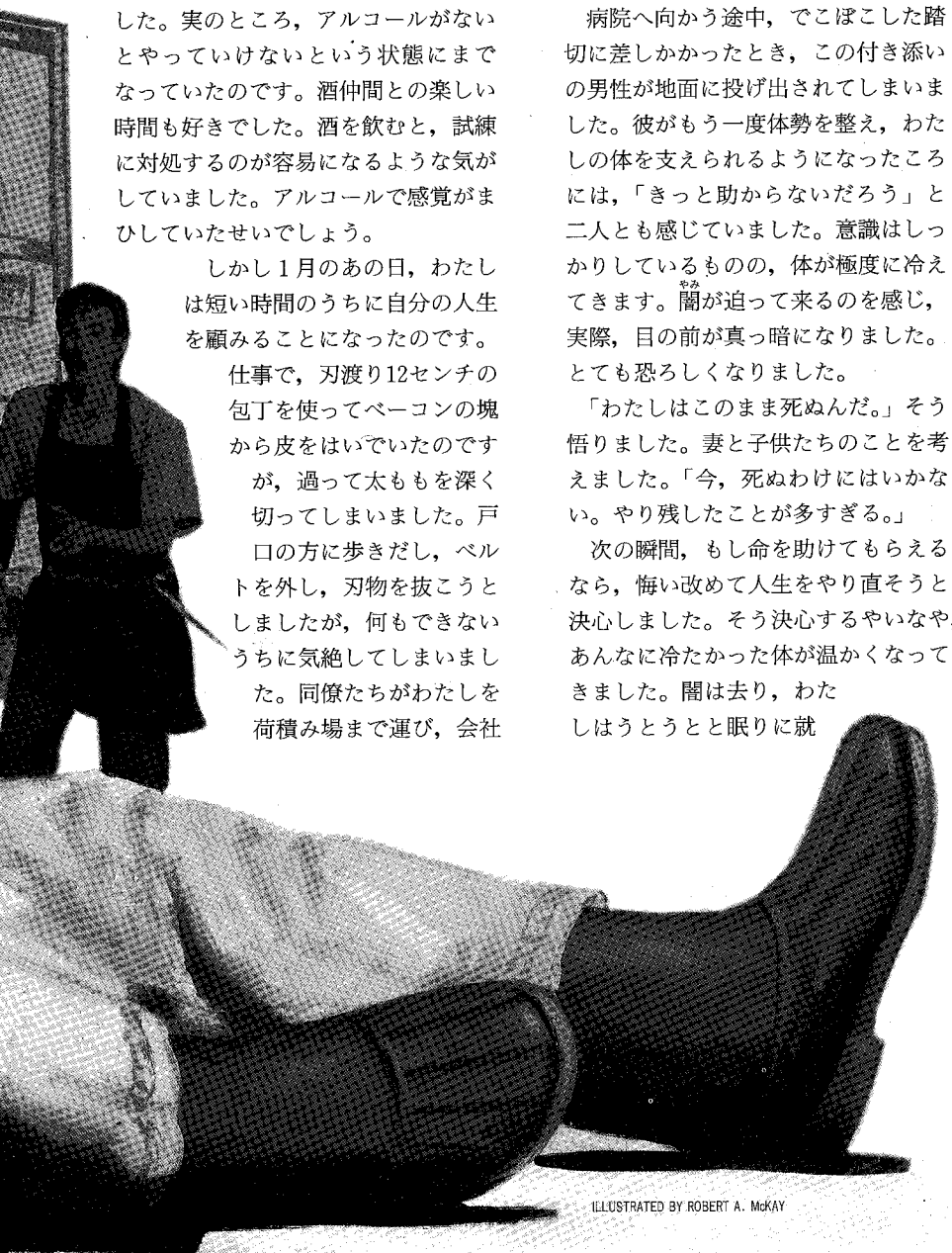
その晩，目を覚ましたわたしは，輝く月を窓から眺めました。やり直す機会を与えられたことを思うと，涙がこぼれました。ぜひとも祈りをささげたいという気持ちになりました。こんなふうに感じたのは初めてです。ひざまずくことはできませんでしたが，天父に思いのすべてを注ぎ出しました。与えてくださったものすべてと，天父の忍耐と憐れみに対して感謝をささげたのです。

以来，優しい妻とすばらしい監督のおかげで，自分にできるとは想像もしていなかったほどの変化を遂げることができました。退院してからは，家族とともに教会に集いました。聖文を学び，教会のほかの書籍も読みました。

祭司に召され，やがて長老に召されました。そしてついには家族で神殿に行き，この世から永遠にわたって結び固められたのです。

祝福はまだ続きました。癌，リューマチ熱をはじめ，幾つもの病と闘ってきた妻の具合が，何年ぶりかによくなったのです。わたしも人生の大半を聴力の減退に悩まされていましたが，断食と祈りを重ねた後，手術を受け，聴力をほぼ完全に回復することができました。

人生のすべてが以前より平和で，楽しく，有意義なものになりました。学んで成長すればするほど，人生最大の幸運とも言えるあの事故に遭わせてくださった神に対し，感謝の祈りをささげるようになっています。□



ILLUSTRATED BY ROBERT A. McKAY

姉妹たちへ

ジャン・T・モロイ

奉仕するとき，姉妹たちはわたしを支持してくれました。そして，扶助協会がすべての末日聖徒の姉妹にとっていかに貴重なものであるかを知りました。

最初，わたしは監督が冗談を言っているのだと思いました。わたしが扶助協会の会長ですって。わたしは結婚していませんでしたし，ワードの姉妹たちに与えられるものなど自分にあるだろうかと疑問に思いました。でも，監督は優しくほほえみ，「天父は姉妹にこの職に就いて奉仕するよう望んでおられます」と言って励ましてくれました。

それからの1週間，わたしはぼうっとして過ごしました。何だか訳が分からない状態でした。そして，次の日曜日がやって来ました。わたしの名前が呼ばれ，会員たちがわたしを支持するための挙手をしたとき，肩に召しという外套（がいとう）がかけられるのを感じました。しかし，その瞬間から，わたしの人生で最もすばらしい霊的な旅が始まったのです。

カトリックの尼僧であったわたしは，1969年にこの教会に入りました。セミナリーの教師に召されたことを感謝しています。6か月後には，ワードの若い女性相互発達協会会長に召されました。

その後17年間，2度福音の教義クラスの教師に召された以外は，ほとんど若い女性と初等協会の組織で働きま

PHOTOGRAPH BY STEVE BUNDERSON

の愛

した。

1988年1月，わたしはニュージーランドのタカプナにあるワードで，扶助協会の教育担当副会長に召されました。間もなくわたしは，自分には扶助協会の姉妹たちに与えるものがたくさんあり，得るものはさらにたくさんあることに気づきました。

成人会員を教える中で，様々な状況に置かれながらも頑張っている姉妹たちの精神を感じられたのは，とても鼓舞される経験でした。扶助協会のレッスンはどの会員にも当てはまるものだと分かりました。結婚や家庭に関するレッスンは，基本的な福音の原則に基づいており，独身の姉妹であるわたしの人生にも必要なものでした。扶助協会はそれまで考えていた以上に，わたしにとってかかわりの深いものとなりました。

しかし，この召しはその後で経験したことの単なる踏み台にすぎませんでした。1年半後，わたしは扶助協会会長として自分が任命される祝福の言葉に耳を傾けていました。姉妹たちを強め，霊を鼓舞するためにすべき仕事がたくさんあることを知っていました。姉妹たちの多くは，わたしとは異なる文化的・経済的な背景を持っていました。わたしは特に定期的に教会に出席していない姉妹たちに，すべての活動に参加し，福音の祝福を十二分に味わうように励ましたいと思いました。

任命された日の夜は，ほとんど一晩中，それまで感じたことのない自信に包まれました。哀れみの気持ちが一

段と増しました。確かに主はわたしの能力を最大限にまで伸ばしてくださいました。そして，主の助けがあれば，主の望まれることを何でも成し遂げられると思いました。姉妹たちの家を訪問し始めると，彼女たちを愛する気持ちもだんだん大きくなっていきました。

老齢で虚弱な姉妹のそばに座り，彼女たちの直面するチャレンジについて耳を傾けながら，わたしは忍耐を学びました。80歳を超えたある姉妹は涙を流しながら，もう編み物や木彫りをする気にもなれないと語りました。体中が痛くて，長く悲しい日々を過ごしていると言うのです。

1年後，わたしは病院のベッドに横たわる彼女のやつれた手を握り，やせた腕をさすっていました。苦しそうに息をする姿を見ながら，「もし御心ならば，彼女を恐ろしい苦しみから解放してください」と天父に嘆願しました。癌が彼女の体をむしばんでいく中，ワードの姉妹たちは，彼女に皆の愛を感じてもらえるよう努めました。だれもが，彼女に平安を得てほしいと切に願ったのです。

2日後，彼女は息を引き取りました。わたしたちは皆，一緒に泣きました。そして，この世の煩いから解き放たれて新たな人生を歩み始めた彼女の喜びを思い描くことができました。

最後の晩，彼女の傍らに座っていたとき，肉体的に大変な状態にありながらも，彼女の人生にはまだ目的がある，とわたしは確信しました。彼女個人にとってだけでなく，わたしたちにとっても目的があったのです。助けを必要としている人がいればこそ，わたしたちは自分の時間と愛をささげる大切さを学べるのです。

わたしたちのワードには，もう自分の目で見ることができず，ほかの人に読んでもらったり知らせてもらったりしなくてはならない姉妹たちがいます。聴力が衰え，日曜日の集会でレッスンや話を聞いてもよく分からない姉妹もいます。それでも，彼女たちの多くは出席を続け，集会所の中で見いだされるフェローシップや愛を求めてやって来ます。

わたしは自分の時間を人のために費やしても，それを犠牲とは感じなくなりました。土曜日の朝を迎えると，たいてい，気分は重く，一日休暇を取り，家にいて，自分自身の悩み事や煩い事に埋没できたらどんなにいいだろうと思ったものでした。時には，心の重みに耐えかねることもありました。けれども，どんな場合にも，だれか困っている人のいる病院や家を訪ねると，自身の心配事は消え去り，平安な気持ちを取り戻せました。こうして，ほかの人に手を差し伸べるときに，主がわたしたちに大きな祝福を与えてくださることを，再び思い起こしたのです。

ワードの姉妹たちの中に感じられる一致はすばらしいものです。経歴や関心，文化の違いを越えて，わたしたちは互いに対する愛で結ばれるのです。

ほかの人の必要を満たそうと努力するときに霊感を受けられたことにも感謝しています。そのようなときには，いろいろな考えが浮かんできます。そして，その考えを実行しようとして導きを祈り求めると，さらに多くの光と知識が与えられるのです。それはとても謙遜にさせられる経験です。わたし自身が霊的に高められ，満たされるのを感じます。

扶助協会会長として得た最も大きな経験は，それ以前には感じたことのないほど愛の気持ちが強くなったことです。主が人を愛し思いやる力を増し加えてくださったのでしょう。この気持ちはその後もずっと続いています。これほど一生懸命働き，これほど大きな喜びを得た召しはほかにありませんでした。扶助協会はわたしの人生を変えたのです。□

「エルサレムを去るリーハイの家族」　スコット・スノー画

ニーファイ（前景）は，エルサレムの民が父リーハイを殺そうとしたことを記録している。リーハイが民の邪悪について証したからである。
「主は……父に，家族を連れて荒れ野へ出て行くように命じられた。……父は荒れ野の中を家族を連れて旅をしたが，
その家族とは，母サライアと兄たち，すなわちレーマン，レムエル，サムであった。」（1ニーファイ1：19―20；2：2―5参照）

聖徒の道 1996年3月20日発行（毎月1回20日発行）第40巻第3号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

小さな町アリス・スプリングスは，荒野の広がるオーストラリア内陸部への入り口にある。しかし，ここに住む末日聖徒の青少年にとって，アリス・スプリングス支部は福音と，福音によってもたらされる幸福への入り口となっている（本誌「アリス・スプリングス」p.10参照）。

大管長会，新管理監督会を発表

第一副監督
リチャード・C・エッジリー長老

管理監督
H・デビット・バートン長老

第二副監督
キース・B・マクマリン長老

ブリガム・ヤング大学学長に就任したメリル・J・ベイトマン長老の後任として，H・デビッド・バートン長老が新たに教会の管理監督となった。

バートン監督は，これまでベイトマン監督の第一副監督として管理監督会で働いてきた。新しい第一副監督には，これまで第二副監督を務めてきたリチャード・C・エッジリー監督が召された。そして，教会福祉事業部部長のキース・B・マクマリン兄弟が新しく第二副監督となった。

バートン監督（57歳）は，1992年10月に管理監督会に召され，二人の管理監督の下で奉仕してきた。ベイトマン監督と，その前任者であり現在十二使徒定員会会員のロバート・D・ヘイルズ監督である。

新管理監督はソルトレーク・シティー出身で，教会の予算委員会顧問を1年間務めた後，14年間にわたって管理監督会秘書として働いた。それ以前は，ケネコット・コッパー社とユタ州の税務機関に勤務した。

ユタ大学で経済学の学位を取得後，同大学の大学院に進んだ。さらに，ミシガン大学で経営管理学の修士号を取得した。

バートン監督は，宣教師としてオーストラリアで伝道し，これまで監督，副監督，ステーク会長，神殿の結び固めの儀式執行者などを務めてきた。バーバラ・マチスン夫人との間に5人の子供がいる。

エッジリー監督（59歳）は，1992年10月に管理監督会の第二副監督に召された。彼もまた，ヘイルズ監督とベイトマン監督とともに働いた。召される前は，教会財務・記録部部長を務めていた。

教会職員となる前は，ミネソタ州ミネアポリスにあるゼネラル・ミルズ社に19年間勤務していた。退職した当時，彼は同社の副社長の任にあり，消費者向け非食品部門の管理・運営に当たっていた。

合衆国東部諸州で伝道し，監督，ステーク会長などを務めてきた。

アイダホ州プレストン出身のエッジリー監督は，ブリガム・ヤング大学卒業後，インディアナ大学で経営管理学修士号を取得した。ポーリーン・ニールセン夫人との間に6人の子供がいる。

マクマリン監督（54歳）は，ユタ州セントジョージ出身でユタ州リーズとソルトレーク・シティーで成長した。ユタ大学で銀行学と財務学を学んで卒業。20年間にわたって教会福祉事業部に勤務し，うち10年は部長を務めた。それ以前は，フォード自動車で，投資および実績・経費分析担当者として働き，幾つかの事業運営にも携わった。

専任宣教師として，また伝道部長としても，ドイツで奉仕した。監督，ステーク会長を務めてきた。キャロリン・ジーン・ギブス夫人との間に8人の子供がいる。□

メキシコで2番目の神殿，計画される

大管長会はメキシコのモンテレーに神殿を建設する計画を発表した。

この新しい神殿は，49ステーク，20地方部に住む，およそ20万人の会員に貢献する。これにより，同神殿とメキシコシティー神殿（1983年，奉献）はあわせてメキシコの70万人以上の末日聖徒の用に供することになる。

新たな神殿は，計画完了後2年で竣工する予定である。

現在教会には，稼働中の神殿が世界中に47あり，さらに15の神殿が計画中または建設中である。□

モンソン副管長，ファウスト副管長，視察団を案内する

カトリック教会幹部，当教会の人道的救援活動の拠点を訪問

チャーチニューズ編集補佐
ゲリー・アバント

11月29日，大管長会のトーマス・S・モンソン副管長とジェームズ・E・ファウスト副管長は，ユタ州在住のカトリック教会幹部をデゼレト産業分類センターおよびウェルフェアスクウェアに案内した。

トーマス・S・モンソン第一副管長とジェームズ・E・ファウスト第二副管長は，カトリック教会幹部が当教会の福祉関連施設に関心を寄せていることを知り，視察に招待した。教会の人道的救援活動の拠点を訪問したのは，ソルトレーク・カトリック司教区のジョージ・H・ニーダローアー司教，ソルトレーク・マドレーヌ大聖堂のフランシス・マニオン司教，ユタ州サンデーの聖トマス・モア小教区のテレンス・ムーア神父，ユタ州カトリック地域慈善事業部理事を務める聖十字架修道院のシスター・マーゴ・ケインである。

当教会を代表したのは，七十人であり，ユタ北地域会長会会長のアレクサンダー・B・モリソン長老，教会福祉事業部のキース・B・マクマリン部長（現管理監督会第二副監督），教会人道的救援活動事業部のアイザック・アイク・ファーガソン部長である。

モンソン副管長は，視察終了後，次のように述べた。「これまでソルトレーク・シティーでは，様々な団体が人道的援助という共通の目的のために力を合わせ，多大な成果を挙げてきました。」

視察団はまず，ソルトレーク・シティーのベネット通り南1665番地にある分類センターを訪れた。センターでは，ロイド・ペンデルトン所長と医療・教育部のロナルド・V・キャンベル部長が一行を案内した。この施設は1991年に，余剰中古衣料品，教育用品，医療品を全世界の人道的救援活動に役立てる目的で設立された。同センターでは，余剰品を再利用し配給すると同時に，言語および職業技術面で援助を必要とする人々に訓練を施し，安定した職を得られるようにしている。

1995年の現時点で，分類センターには約1万トン分の衣料品が届けられた。これは2,000万人以上に行き渡る量である。これらの衣料品は合衆国内をはじめ，53か国に送られた。また45か国に医療用品，教育用品が105回に分けて送られた。

分類センター視察後，一行は西743番地，南700番地のウェルフェアスクウェアを訪れ，ケビン・ニール部長から歓迎を受けた。モンソン副管長，ファウスト副管長およびカトリック教会からの視察団は，施設の乳製品部でチーズや粉乳が包装される様子を視察した。また一行はウェルフェアスクウェア内にあるデゼレト産業の店舗，および監督の要請により必要な人に食料品を送る監督の倉庫を訪問した。監

日本宣教師訓練センターに新所長召される

清水新伝道部長ご夫妻

1994年2月より東京の日本人宣教師訓練センターの所長であった岡本亮(りょう)兄弟は2年の任期を終え，1996年2月1日付けで新たにM・トム・清水長老（62歳）が順子夫人を伴い，新所長となった。二人はソルトレークのワードの会員で，息子が4人いる。

カリフォルニア州ロサンゼルス出身の清水所長はこれまで，日本中央伝道部の伝道部長（1971－74），高等評議員，神殿の結び固めの儀式執行者，ステーク伝道部長，監督，地方部長，支部長，専任宣教師を務めている。地域開発会社の共同経営者であり，地域社会活動にも活発に携わってきた。またソルトレーク地域の政治家として7年間働いた。

名古屋出身の清水姉妹は，これまで教会で専任宣教師，教師，音楽関連の様々な責任を果たし，ワード，ステーク初等協会会長会，ボーイスカウト委員会でも働いた。また，9年半にわたり扶助協会中央管理会で奉仕してきた。夫と同様，様々な地域活動や市のプログラムに携わってきた。

清水所長夫妻は2年の任期で，この新たな召しを果たす。□

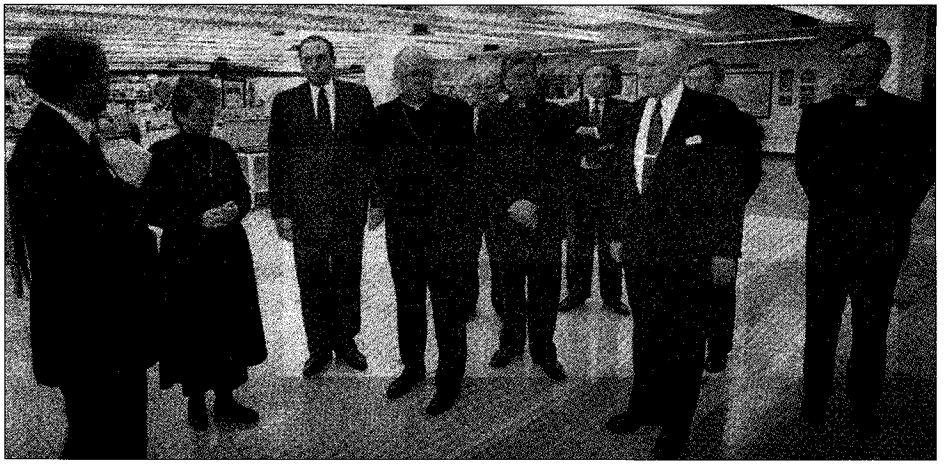
督の倉庫は，監督の要請により必要な人に食料品を送るために設けられている。

視察も終わりに近づいたころ，一行はウェルフェアスクウェアの訪問者センターに立ち寄った。そこでモンソン副管長は同施設の歴代所長の写真を示した。そして末日聖徒福祉計画の目標が刻まれた銘板に注意を促した。以下の福祉計画の目標は1936年にJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長により起草されたものである。「福祉計画の真の長期的目標は，与える側でもあり受ける側でもある教会員の人格を培い，魂を救い，霊性を高めることである。つまり，これは教会の使命でもあり，教会の存在する理由でもある。」

最後に，この貯蔵プログラムにより生産された食品のサンプルを，リフレッシュメントとして試食した。チーズ，パン，ジャム，プレスハム，バニラ味およびチョコレート味のプリン，ココア，フルーツジュースなどである。

モンソン副管長は次のように述べた。「異なった信仰を持っていても，助けを必要としている人々の力になりたいという共通の関心を分かち合うことができます。飢えている人に食を与え，人々の苦しみを取り除くために，力を合わせるのです。ソルトレーク内のステークの各会員は，カトリック教会の聖ビンセント・デ・パウロセンターで土曜日ごとに，ホームレスやほかの困窮者に食事を用意し配給しています。割り当てを受け，交替で奉仕しているのです。土曜日に準備される食事は監督の倉庫から提供されるものなので，ニーダローアー司教や関係者たちが倉庫や分類センターに関心を抱いてくださったのは当然のことかもしれません。」

デゼレト産業分類センターおよびウェルフェアスクウェアは，一般の人々も無料で見学できる。（*Church News*『チャーチニューズ』1995年12月9日付け）



末日聖徒分類センターで。人道的救援活動のために寄付された品々を示すロナルド・V・キャンベル兄弟（左）。視察したのは，聖十字架修道院のシスター・マーゴ・ケイン，トーマス・S・モンソン副管長，カトリック司教区のジョージ・H・ニーダローアー司教，テレンス・ムーア神父，ジェームズ・E・ファウスト副管長，フランシス・マニオン司教。後列はアレクサンダー・B・モリソン長老，アイザック・ファーガソン兄弟，ロイド・ペンデルトン兄弟。

BYUプロジェクト，死海写本研究を援助

ユタ州プロボ発

ブリガム・ヤング大学（BYU）の研究者たちは，死海写本に関する調査に貢献し，写本の内容を全世界の人々が入手し理解できるよう尽力していることで注目を集め，称賛を受けている。以下のように多岐にわたる貢献をしている。

1．ブリガム・ヤング大学と同大学内の「古代調査とモルモン研究協会」（FARMS）は最近，ブリガム・ヤング大学エルサレムセンターで開かれたユダヤ砂漠写本会議において，死海写本のCD-ROMデータベースを試作段階ながら発表した。この発表は「エルサレム死海写本協会」と共同で行われたものである。会議ではこのほか，死海写本研究の著名な学者たちの研究論文が発表された。エルサレム死海写本プロジェクトを指揮するエマニュエル・トフ，昨年から死海写本の翻訳に携わってきたブリガム・ヤング大学のダナ・M・パイク教授，デビッド・R・シーリー教授，ドナルド・W・パリー助教授らの研究発表である。

「会議に出席した研究者たちは，わたしたちの尽力に対して大変好意的でした」と，パリー兄弟は語る。彼は今回の会議で，スティーブン・W・ブーラスの助けを受けてデータベースを発表した。スティーブン・W・ブーラスは，ブリガム・ヤング大学に本部を置く非営利教育機関であり古代聖文研究に取り組むFARMSで，特別プロジェクトのディレクターを務めている。パリー兄弟は続けて「彼らは，以前は山のような写本と格闘するしかなかった資料が手軽に入手できるようになると大変喜んでいました」と語った。

死海写本データベースは，ブリガム・ヤング大学とFARMSが1993年から取り組んできたもので，1年以内に，研究者だけでなく一般にも公開したいとしている。これが可能になれば，使用者は写本や写本断片のグラフィック・イメージを端末画面に表示し，同時にヘブライ語の内容とその訳文を参照したり，写本の文字を拡大したりできるようになる。また，写本や写本断片に描かれた何百，何千という絵の解説を一つずつ表示したり，瞬時に言葉を比較・検索したりすることも可能となる。

データベースには，注解，機関誌の記事，文献目録，死海写本研究内容の索引，ヘブライ語，アラム語，英語での死海写本の総合索引なども収められている。

このほか，ギリシャ語およびヘブライ語の『旧約聖書』，ギリシャ語の『新約聖書』，聖書外典とラビ文献，ギリシャ語やギリシャ文化を取り入れたユダヤ人の著作なども，最終的にはデータベースに取り入れる予定である。

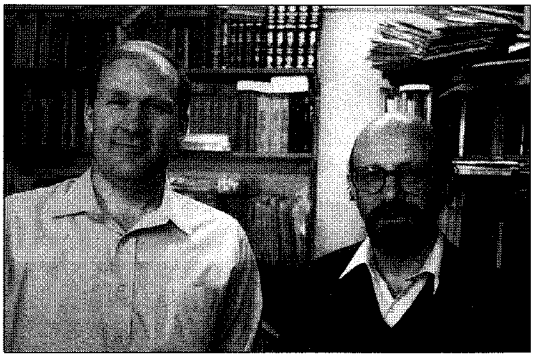
2．エルサレムのブリガム・ヤング大学調査団は，これに関連した別個のプロジェクトとして，DNA分析を使って動物の皮や羊皮紙に書かれた死海写本の断片をつなぎ合わせようとしている。

ブリガム・ヤング大学の微生物学助教授であり，DNA研究を専門とするスコット・ウッドワード兄弟は次のように述べている。「写本をつなぎ合わせるためにこれまで最も有効だった筆跡鑑定法では，どの断片が同一の筆者によるものであるかしか分かりませんでした。しかし，DNA分析により，写本が書かれた動物の皮の遺伝子学的特徴をもとに写本断片をつなぎ合わせられるようになったのです。」写本，あるいは写本断片が，どのような動物の皮に書かれたかを判別することで，写本がどの地域から出てきたものかを発見できるようになるという。

「これからは，写本や羊皮紙の断片を，それが古代イスラエルのどの地域からのものかによって分類できるようになるはずです。これによって，写本に記された宗教的概念が当時どれだけ広範囲に及んでいたかも分かるでしょう」と，ウッドワード兄弟は語った。彼はユダヤ砂漠写本会議でも写本のDNA調査について発表している。

3．ブリガム・ヤング大学が開発した地下9メートルまで透視できる大口径レーダーは，死海写本を調査する人々にとってさらに大きく貢献している。ブリガム・ヤング大学の政治学教授であり，FARMS所長でもあるノエル・B・レイノルズは，新たな写本を探し出すための許可をイスラエル古代遺物局から受けた。FARMSが低空飛行機からレーダーを使って死海周辺の未発見の洞くつを探索するのである。

ブリガム・ヤング大学とFARMSの



死海写本翻訳者の一人，ブリガム・ヤング大学のドナルド・W・パリー助教授（左）と，エルサレム死海写本プロジェクトを指揮するエマニュエル・トフ教授。

死海写本調査に対する貢献は，聖書学者の興味と関心を呼び起こし，同大学の学術的評価を高める結果となった。ブリガム・ヤング大学は1997年に開かれる死海写本の国際会議を主催する予定である。

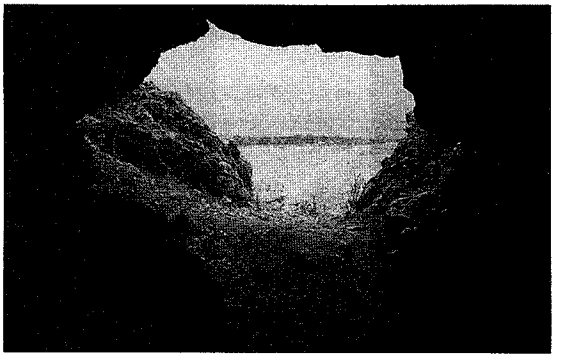
1947年に死海北西岸近くの洞くつで発見された写本には，これまで知られる中では最古の『旧約聖書』の写本をはじめ，聖書外典や宗教的記述が含まれている。研究者によれば，写本は紀元前200年から紀元後70年までの間に，クムランとして知られる居住区に住んだユダヤ人によって書かれ，まとめられたものだと考えられている。

4．ブリガム・ヤング大学のヘブライ語助教授であるドナルド・W・パリーは次のように語っている。「死海写本は初期ユダヤ教と初期キリスト教について新たな見識を与えるものであり，その中には末日聖徒にとって特に興味深い事柄があります。例えば，クムランに住んでいた人々は，永年神殿に関心を寄せていました。また死海写本には，末日に関連したメシヤについてのより広い視点からの考えが示されています。モーセ，エノク，メルキゼデクに関する文章も見られます。さらには，新エルサレム，祝福とのろい，聖めを受けるための定め，『光の子らと闇の子ら』との戦い，などについても語られています。」

死海写本中のサムエル記上・下の翻訳に携わるパリー兄弟は，翻訳された写本が現在の『旧約聖書』の内容と異なっていることもあると語る。

死海写本中のサムエル記上・下は，それまで知られていたヘブライ語の写本よりも１,000年古い。「神の名であるエホバ，あるいはヘブライ語のヤハウェが数多く出てきます。しかし，現在の英語『旧約聖書』の基になったヘブライ語『聖書』の数か所で，ヤハウェはエロヒムという言葉に代えられたり，サムエル記から削除されたりしているのです」とパリー兄弟は語る。

「死海写本の中で発見されたサムエル記が現在の『聖書』に収められたサムエル記のほんの一部でしかないとすると，これは重要な意味があります。『聖書』の記述の中には，死海写本と比較した場合に，意図的に変えられたと思われるものがあります。これは恐らく神学的な理由からだと思われますが，意図的でない変更が見られる場合もあるのです。」（*Ensign*『エンサイン』1995年12月号，pp.70－71）



（上）クムラン遺跡。死海写本が見つかった洞くつ近くにある。
（下）第11クムラン洞くつの入り口から撮影

教会の集会での賛美歌の使用

ソルトレーク・シティー発

教会の集会における音楽は，教会発行の『賛美歌』『子供の歌』『聖歌隊用賛美歌集』（英文）から選んだ曲に限定すべきかどうか，という問い合わせが教会本部に多数寄せられている。聖餐会をはじめとする教会の様々な集会で用いる曲のほとんどは，承認されたこれらの資料から採用すべきである。しかしながら，教会の賛美歌の精神と調和する適切な曲であれば，時折用いることができる。□

教会，156の国・属領地で組織される

ソルトレーク・シティー発

教会は徐々に，全世界に広がっている。その成長の一つのしるしともいえるのが世界でワード・支部が組織されている国と属領地の数である。

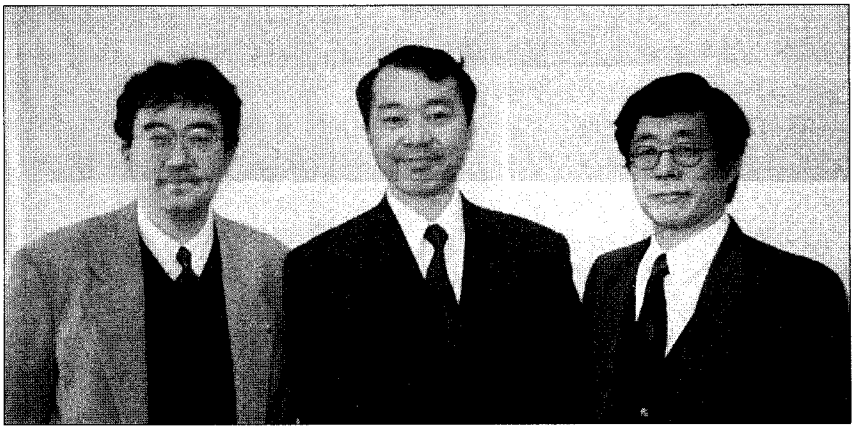
現在教会は，国連に承認されている国々の70パーセント，すなわち188か国中132か国にワード・支部を組織している。世界の属領地の数は頻繁に変化しているが，組織された教会ユニットの存在する属領地は，現在世界中で24ある。

国・属領地における教会ユニット数の増加には２種類ある。新たな教会ユニットの設立，または新たな建国である。□

●教会が組織されている国と属領地の数

	国	属領地	合計
1991年	115	23	138
1992年	122	24	146
1993年	125	24	149
1994年	126	24	150
1995年	132	24	156

再組織された名古屋伝道部福井地方部長会



昨年12月10日，名古屋伝道部のJ・リード・マックレー伝道部長管理の下に開催された福井地方部大会で，1992年4月より地方部長の責任を果たしてきた竹沢護兄弟が解任され，新たに渡辺健兄弟（写真中央）が召された。第一副部長には和田佳久兄弟（写真左）が，第二副部長には野崎史郎兄弟（写真右）が召され，その任に当たる。

「主が命じられたことを行います」

――「わたしには用意ができていました」――

名古屋伝道部福井地方部長　　渡辺　健

昨年12月10日の地方部大会で，J・リード・マックレー伝道部長より福井地方部長の召しを受けました。

わたしは，この大会で地方部長会の変更があるのではと感じていました。地方部の第二副部長だったわたしは，土曜日の集会の準備をしていて，祈っているときに「全力を尽くしなさい」と主からの思いがあり，できる限りの思いと信仰を表すために準備をいたしました。

土曜日なって準備をするために，1時間ほど前に教会に行きました。教会に着いたそのときに「面接があります」と言われ，びっくりしました。心の準備をする時間がありませんでした。でも，わたしには答える用意はできていました。主がわたしを導いて，人々のために使ってくださるなら喜んでどのような責任でも果たそうと思っていましたので，「はい」と答えました。

わたしが地方部長会の一員としての責任を受けて，この1年の間に，主はその準備をわたしにするように導かれ，「何が大切なのか，どのように導けばいいのか，主の思いが何であり，どのように人々の生活に祝福をもたらすことができるのか，主がどれだけ人々を愛されているのか」などを，わたしに教えてくださったのです。できる限りの準備を行っても，主はすべてのことを知っておられ，その思いは高いことも経験により学ぶことができました。準備するために最も大切なことは何かを知りました。

面接のときに地方部の副部長を選ぶように言われたときに，主に心を向けていると，わたしが地方部長の責任を果たすときに，わたしとともに働き，助け，導き手となってくれる人を，主はすでに選んでくださっているのに気がつきました。副地方部長になるようにと示された一人の兄弟の夫人には，数週間前の面接でご主人が大切な主の責任に召されるであろうことを告げていました。わたしは謙遜に主の御心を行いたい，主とともに歩みたいと思っています。

主はわたしを含めて12人の神権指導者と補助組織の役員となる姉妹たちを選んでくださいました。この福井地方部内のすべての人々に対して，その責任と義務，信仰，希望，愛，模範，祝福を分かち合うために，働くようにと主は望んでおられるのです（3ニーファイ19：28－29参照）。

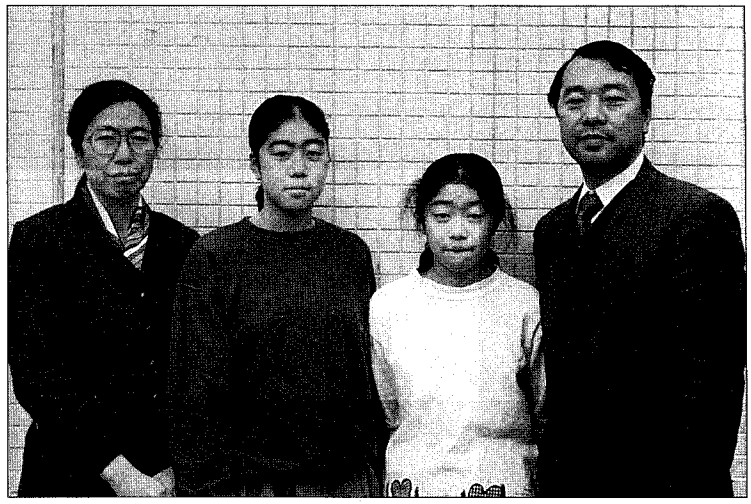
わたしは主の宮で主から多くのことを教わってきました。これからは，これらの役員となる方々や多くの教会員の信仰と証，模範に支えられ，主が彼らに示されることと，「主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう」（アブ3：25）と言われる主の言葉を実行できるように，主とともに歩みたいと思っています。『モルモン書』ニーファイ第一書第3章7節に「わたしは行って，主が命じられたことを行います」とあるように，まずわたしから模範を示せるように働きたいと思っています。

「モルモンパビリオン」での出会いから

わたしが最初に教会の名前を知ったのは，1970年の大阪万国博覧会でした。いちばん最初に入った「モルモンパビリオン」のことは今でも心に残っています。訪問者リストに名前を記入して

渡辺 健 地方部長の紹介

1953年福井県丹生郡清水町生まれ。18歳で改宗，福井工業大学卒業（電気専攻）。現在はオーディオメーカーのサービス代理店を営む。1980年に乃村恵子姉妹と東京神殿で結婚し，子供が二人いる。福井地方部福井第一支部所属。これまで，地方部の副部長，ステーク高等評議員，支部長，副監督，地方部評議員，ステーク宣教師，インスティテュート教師などの責任を果たしてきた。



渡辺健地方部長ご家族

きたのですが，後に教会に送られてきたそれらのリストの中にわたしの名前はありませんでした。

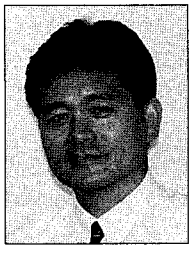
その後，わたしが宣教師と出会ったのは，家に帰るためにバス停に向かっていたときでした。二人の宣教師から話しかけられたのです。そのときのわたしは福音を受け入れる準備ができていました。イエス・キリストに従いたいという気持ちを持ち続けていたからです。心から受け入れることができました。レッスン中に涙ながらに証をしてくださった宣教師の中村長老に心からの感動を覚えました。わたしは宣教師のような人になりたいと思っていました。

小松支部の付属として集会が始まって3か月目の安息日の朝，わたしはこの支部の4番目の会員としてバプテスマを受けました。あれから24年の時が流れました。これまで指導者の方々の模範からわたしに足りないところを見いだし，取り入れるように努力してきました。わたしが苦しいとき，悩んでいるときに忍耐することや謙遜になること，愛を示すこと，従順になることを教えてくださった兄弟姉妹に心から感謝しています。

主がわたしの福音と言われた言葉を調べてみますと，そこにすべての基があるのを知ることができます（3ニーファイ27：13－21参照）。一人一人の大切な模範と信仰，希望，愛によって地方部が支えられるように御霊によって喜び，愛し，助け合い，信仰を表し，学ぶならば主によって守られるからです（3ニーファイ20：42参照）。福音を求めているすべての人々のために，手を広げて招こうではありませんか。主がともにおられるからです（3ニーファイ20：22参照）。

福井地方部のテーマは「信仰を表し，主に学ぶ」です。またテーマ聖句であるニーファイ第一書第3章7節「わたしは行って，主が命じられたことを行います。主が命じられることには，それを成し遂げられるように主によって道が備えられており，それでなくては，主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです」と語ったニーファイに倣って成長したいと思っています。（わたなべ・たけし）

すばらしい主の祝福，教会堂



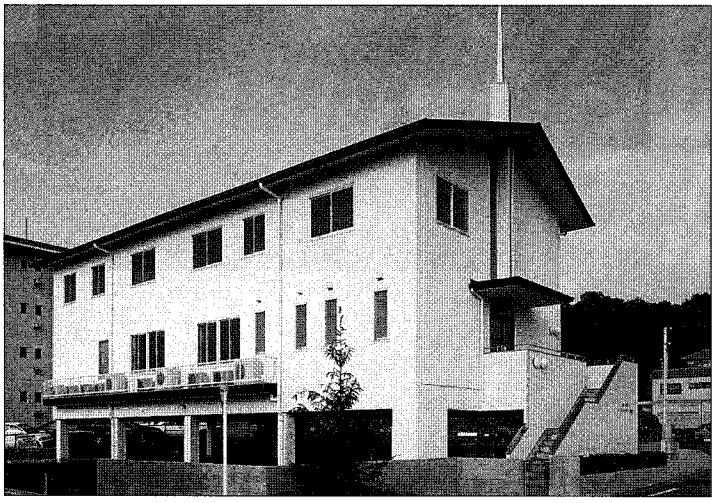
名古屋ステーク
豊田支部
竹本洋一

豊田支部が，現在の岡崎ワードから独立して付属支部として集会を始めたのが，今からおよそ19年前です。当時は決まった集会場がなく，今週は市の体育館，翌週は市民センターの会議室と，毎週集会場の予約を取っては一部屋ですべての集会を行ってきました。まだそのころは，人数も2，30人余りで，家族的な雰囲気の中で集っていました。

その後，御幸本町，十塚町と，二つの集会場に移り，集会を行ってきました。どちらも夏は暑く，冬は寒くて，特に夏は扇風機だけで，そのうえ天井の低い最上階ということもあり，大変蒸し暑く，全員が額に汗して夏を乗り切ってきました。エアコンの利いた涼しい礼拝堂で聖餐を受けられるのを夢見て頑張ってきました。

土地を購入し建築ができる条件を満たしたものの，なかなか良い場所を見つけることができませんでした。10か所以上の候補地があって，契約寸前まで行きながら最後の条件が合わないために決まらない状態で1，2年が過ぎました。半ばあきらめていたときに，今の教会の土地が見つかり大変うれしかったことを覚えています。

またこの場所は，以前に探していたときは区画整備されていない場所で，名鉄梅坪駅まで徒歩5分，比較的静かな住宅街で，過去に探したどの土地よりもすべての条件が上回っている最高の場所でした。



末日聖徒イエス・キリスト教会豊田支部

所在地　〒471　愛知県豊田市梅坪町6丁目117
電　話　0565-31-4807　　完　成　1995年6月14日
敷地面積　425.9㎡　　建築面積　193.69㎡
延床面積　532.06㎡　　鉄骨造3階建

またこの場所が神様が備えてくださった所であると思うのは，教会の付近は急速に開けて新しい建物が続々と立ち並び，人々が集まって来ていて伝道に最適な場所となりつつあるからです。

以前は，車の町，豊田市なのに駐車場が2台分しかなく，毎週駐車場探しに苦労していました。今は20台以上も駐車するスペースがあり，エアコンの利いた教会は，何もかも夢のようです。主の思いはわたしたちの思いとは異なり，常にわたしたちのために最も良いものを備えてくださっていることを再確認することができました。この祝福をこの地に住む人々に分かち合っていきたいと願っています。（たけもと・よういち　ステーク高等評議員）

死者の霊たちを身近に感じた系図探求

オハイオ州シンシナティ北ステーク
モンゴメリーワード
池田和政

1994年5月，出張で京都に行った折（当時東京在住），仕事先の手違いで午後から半日，時間が空きました。どうやって時間をつぶそうかと考えていると，京都に父方の古い墓があったのを思い出し，大阪にいた父に電話で場所を聞きました。若いときに訪問したきりで，20何年も前の記憶は定かでなく，ようやく訪ね当てたお寺で池田家の墓を見つけました。

「あなたがたの救いの業が進みますように祝福します」

先祖に関する情報でもあるだろうかと墓石を調べましたが，文字はほとんど読めず，お寺の住職に聞いても詳しい情報は得られませんでした。しかたなく墓の前にぬかずいて祈りをささげていると，「どうぞ祝福してください」という死者の強い願いを感じ，御霊に感じるまま神権による祝福を行いました。「あなたがたの救いの業が進みますように祝福します。」この祝福の言葉がそれからすぐに成就しようとは，このときは夢にも思いませんでした。

さて墓地から出ようとすると，今まで感じたことのない不思議な感情にとらわれました。墓全体がざわざわとして，何とも言えないやるせない思いがわたしに向けられてきたのでした。空は真っ青に澄みわたり，5月の気持ちの良い風が吹いていました。わたしはじっと耳を澄まして，次に何が来るのか，そしてこれが何であるのかを主に尋ねながら，深く思いを巡らせていました。突然理解できたのは，これが「うらやましい」という死者たちの感情だということでした。

わたしは夢中で彼らにも神権による祝福を施しました。池田家の先祖にわたしが施した祝福に対して，ほかの死者たちが強い羨望を示したのだと，祈りの中で確信しました。とても霊的で貴重な経験でした。

「ご先祖の話を聞きたくないかえ？」

わたしは再び父に電話をし，京都に親戚がいるか尋ねました。父は，生きていれば年を取ったいとこが住んでいるはずだと，場所を教えてくれました。そこへ行ってみると，はたして一人のおばあさんが出て来て，自己紹介するわたしを奥へ招き入れ，あいさつもそこそこに「あなた，ご先祖の話を聞きたくないかえ？」と切り出しました。わたしは大変驚きました。なぜなら，わたしは自分が何を求めて来たのか話しておらず，出張のついでにお墓参りに来たとしか告げていなかったからです。

それから延々6時間にわたって，わたしの祖父とその11人の兄弟姉妹，その子供たち，さらにそこから3代前までさかのぼった人々の話が，それぞれ個性豊かなエピソードを交えて語られ

たのです。最後におばあさんは「わたしは最後の語り部。この話をだれかに引き継ぐまでは死ねなかったの。だから何十年もの間，早くだれかこの話を引き継ぐ人を送ってくださいと神様にお祈りしていたの。それが今日かなえられたわ。神様のお導きです」と涙を流して喜んでくれました。主以外にだれがこのような不思議なことをなし得るでしょう。わたしはというと，何十枚ものメモを手に，ただただうれしくて興奮していました。

東京に戻ったわたしは，後日そのおばあさんから送られた過去帳のコピーなども加えて，一生懸命資料をまとめました。そこには約90人分の名前がありました。改宗当時，双子の兄と「兄貴は父方，ぼくは母方の系図を担当」と決めていましたので，兄にその資料を送り，自分は母方の系図探求に乗り出しました。しかし，こちらは資料を入手する手立てがないので，さらに困難が予想されました。それでも何かに突き動かされるように，わたしは動き始めました。

7月に大阪の母方のおばの家を訪ね，先祖の話を聞きました。しかし，昔の大阪人の常でその口からは具体的な先祖の姓名の代わりに「どこそこのおばちゃん」「何屋のおっちゃん」などといった地名，屋号を冠した人の名前ばかりが出てきて，生年月日はおろか血縁関係すら明確な情報が取れませんでした。それでも，先祖のたくさんの写真や過去帳の資料をもらうことができました。しかしそれからの作業ははかどらず，どうしてよいか分からずに祈ったとき，系図の資料を役所に送るようにと明確な指示が答えとして与えられました。疑いようもないほどのはっきりした指示でした。

死者の贖いは立派な先祖供養

早速わたしは，母方の系図を書いたものと「わたしは先祖の系図を探求している者で，資料の赤丸を付けてある和政です。親戚がばらばらになり先祖供養（死者の贖いは立派な先祖供養といえます）もできない状況ですので，丸印を付けた人々の情報を頂けないでしょうか」と書いた手紙，郵便小為替を何か所かの役所に送りました。するとすぐに役所から電話があり，「ほんとうは遺産相続とかでないかぎり関係ない人には送られへんけど，送りますわ」とうれしい返事をもらいました。しかも「区画整理で，うちとは変わってるので，所轄に送ります」とのこと。こんなに親切に協力してもらえるとは想像もしていませんでした。ほかの役所からもどんどん電話が入り，最終的にたくさんの資料が東京に送られてきました。これが8月のことでした。

それから，自室にこもって夜の更けるのも忘れて，一生懸命書類の作成に取り組みました。どんどん傍系の不明なところが現れましたが，その都度，役所から必要な追加資料をもらえました。差別問題でこのような資料の入手は難しい地域ですのに，よく情報が取れたものだと今でも不思議です。

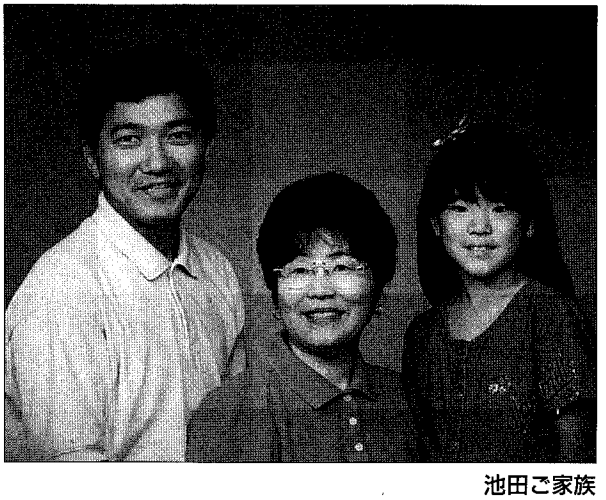
霊界との幕が薄くなった時間

夜，わたしが先祖の写真を傍らに作業をしていると，死者の霊たちがわたしのそばで作業をじっと見守っているのを，ひしひしと感じました。「あ，今そばに来ているな。のぞいているな」という非常に存在感のある感じ方でした。元来，お化けなどは怖くてこのようなことは我慢できないはずのわたしですが，とても死者に近いものを感じ，恐ろしいというより「待っててくださいね。もうすぐですから」「今日は疲れたので，ちょっと休んでいいですか」などと話しながらの作業になりました。まさに霊界との幕が薄くなったと感じた時間でした。

最終的に123人分の儀式用の資料が出来上がったのは，わたしが転勤でアメリカに赴任する数日前でした。そのときになってようやく，なぜ死者の霊たちがわたしにこの作業を急がせたのか分かりました。

まず最初の理由は，わたしの転勤です。転勤の知らせを受けたのは8月末，つまりわたしがおもな資料を集め終わり，作業にかかり始めたころでした。死者の霊たちは，わたしがアメリカに赴任してしまうと，また何年待たされるか分からないと慌てたのでしょう。そのことを事前に察知した霊たちは，5月の京都出張をわたしのために計画し，墓や京都の語り部のおばあさんの家に導いたのでしょう。実際，京都の出張では大した仕事もなく，やったことといえば系図の調査だけだったのです。

2番目の理由は，秋口にわたしが病で倒れ作業が中断したことです。この間のロスタイムも考えて，彼らはわたしを急がせたのに違いありません。病気は医者の見立てでは脳梗塞ということで，生きているのが不思議だと言われるほどでしたが，霊たちはわたしが



池田ご家族

死ぬことをまだ認めなかったのでしょう。系図が完了するまでは生かされるものと信じてはいましたが，さいわい今も元気で，何の障害もありません。

エリヤの霊に導かれて

そして，1995年４月に出張で日本に一時帰国した際，東京神殿に参入し，提出した家族ファイルのエンダウメントを受けられるか尋ねてみたところ，何とその前日に以前所属していた三鷹ワードの会員がエンダウメントに必要なすべての儀式を受けてくれていたのです。わたしはその晩，母方の先祖の中でいちばん年長の男性のためにエンダウメントを受けることができました。

儀式の最中，その男性の存在を感じました。多分今ごろは，メルキゼデク神権者として母方の死者で組織されたワードの指導者になっているかもしれないと思いを巡らせると，とても幸せな気持ちになりました。彼らはいまや儀式を受け，過去何十年もの間できなかった奉仕の業を霊界において行っているのです。義人ではあっても，バプテスマも受けず神権も受けていなければ，霊界で奉仕することはできないのです。多くの霊たちが長い間わたしのために懸命に霊界で祈り続けてくれたことを感じ，うれしくなりました。

わたしは間違いなく，「先祖のことに心を向かわせるエリヤの霊」に導かれたと強く感じています。先祖が真実の教会に加入したくてもできなかった長い年月を思うと，自分の怠慢が悔やまれます。わたしの系図探求の業はまだ終わりではありません。きっとまだまだ待っている人々がいるはずですので，彼らの救いの手伝いをしたいと思っています。神殿の業は真実まことの主の業で，この地で結ばれることが天でも結ばれていることを心から証(あかし)します。（いけだ・かずまさ　ワード若い男性副会長）

職業と信仰シリーズ

価値ある存在

――矯正教育に携わって――

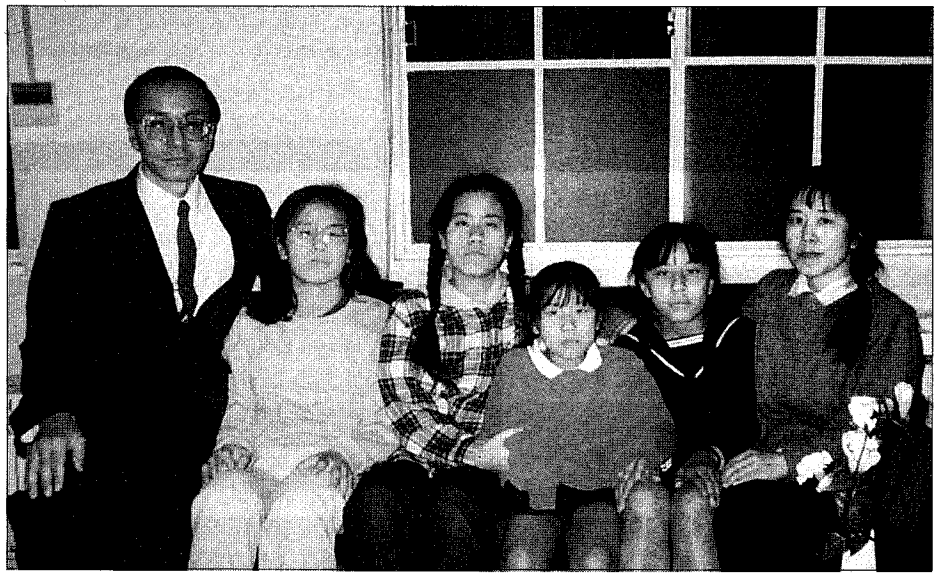
福岡ステーク福岡ワード
浜　孝明

福岡少年鑑別所次長（法務教官）

現在わたしは，少年鑑別所に勤務しています。少年院や少年鑑別所は，犯罪，非行を犯した少年（原則として14歳から20歳未満）を収容して，教育を施し，心理テストなどにより少年の資質を見極め，彼らの社会復帰，更生を援助する施設です。これらは一般に，矯正施設と呼ばれています(成人を対象とする刑務所も同様)。

わたしは，1971年，大学４年の終わりにバプテスマを受け，その後大学院に進学しましたが，就職に際しては，専攻が教育学ではありましたが，学校教育以外で自分の力を試したいと思い，国家公務員試験を受け現在の道を選びました。現在の職場は，学校教育と異なり，単に知識を教授することではなく，少年の内面，すなわち考え方，心のあり方，性格や人格との触れ合いを通して，誤った道から正しい道へ再び引き戻すという，かなり特殊で困難な処遇ですが（これを「矯正教育」と言います），やりがいのある仕事でもあります。

最初，八王子市にある少年院に勤務し，収容されている少年を直接指導する機会がありました。少年たちは，様様な犯罪や非行にかかわってきたにもかかわらず，一人一人に接してみると，いわゆる「犯罪者」とは違い，人懐っこい普通の青少年と何ら違わない印象がありました。しかし，彼らは，家庭的に問題があり，かなり早期から問題行動に陥っていた者が多いため，わたしたち教官の教えや指導を一応は聞くものの，表面的で，すぐにトラブルを起こすなど，ほんとうの意味で改善，進歩を見せることはなかなかありません。



浜ご家族

わたしの証

大半は中学校をやっと卒業した程度で，いわゆる落ちこぼれである彼らは，親や先生，警官などから何度も何度もしかられ，注意され，怒られ，だめだ，だめだと言われ続けてきたのでしょう。その結果，「もうどうしようもない。自分はこれでいいんだ」という一種のあきらめや劣等感にこもってしまいがちです。ですから，何かにチャレンジしたり，自分をより高めるための活動や機会を回避し，楽な道，一時的な快楽の世界，いわば暗黒の境涯にとどまることを選んでいるのです。

こうした状態から脱するためには，自分自身の価値に目覚め，しっかりした生きる目標を持ち，揺るぎない信念と自信を持つことが必要ですし，特に，罪の淵で苦しんでいる場合には，これを心底から悔い改め，文字どおり生まれ変わることを願い努力しなければなりません。これは，福音の原則とまったく同じであると思います。

わたしは，少年がこのように変化し，意欲的に毎日の生活を送るようになることを常に心にとどめて処遇に当たっています。しかし，公務員ですので，宗教教育などを行うことはできません。それでも，人の教育にはイエス・キリストの価値観，福音の原則をもって指導に当たることが肝要ではないかと考えます。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい」（教義と聖約18：10）とあるとおり，人はすべて神の子として生まれ，神から愛されていること，一人一人がそれぞれに価値を有していること，また「自分を愛するように，あなたの隣り人を愛」（マタイ19：19）するとは，自分と相手が同じレベルにあると知ることです。

教官と被収容者という関係にあり，それがたとえ罪悪にまみれた相手であっても，彼らに対する態度や言葉遣いは何も特別なものではないはずです。わたしは，分かりやすい言葉を使い，呼び捨てにせず，「おい，こら」などと横柄な態度は慎むようにしています。そうすることで，少年の心が少しでも和らぎ，信頼関係を築き上げ，結果として彼らが目覚めるものと信じているからです。簡単ではありませんが，彼らが「自分にはこんなこともできたんだ。変わろう。頑張ろう」と感じるはずです。

「矯正」という職場には，わたしが知っているだけでも全国で10人近くの教会員がいます。それぞれ活躍され，高い評価を受けておられることが，わたし自身の励みであり，誇りでもあります。

また，若いときに教会活動として演劇や音楽を楽しく学び，これらは実際に職場でも役立てることができ，祝福であったと感謝しています。転勤に伴い，すでに6回の引っ越しを行いましたが，妻と子供たちの協力があったことに加え，どこに行っても教会があり，会員の温かい援助を受けて生活できる祝福をありがたく感謝しています。福音が真実でありますことを証します。

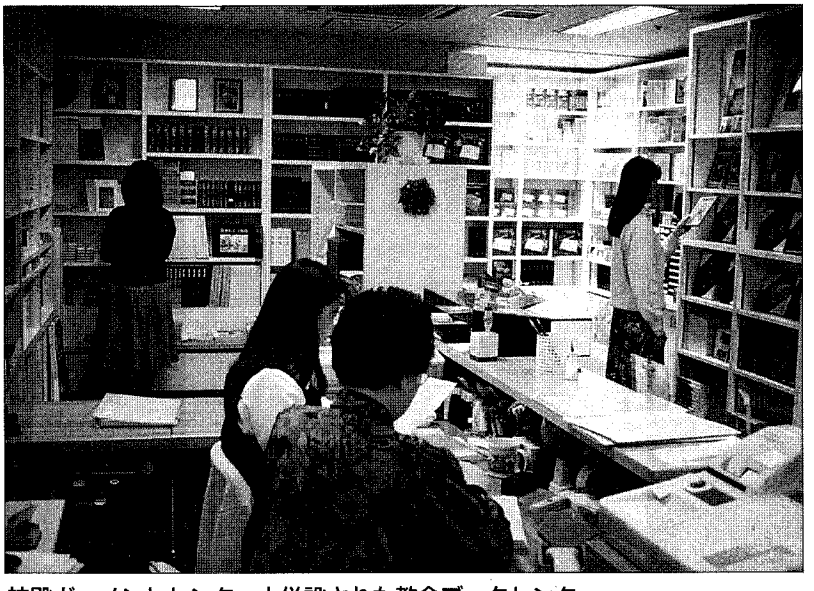
（はま・たかあき　第一副監督）

お知らせ

教会ブックセンター，ガーメントセンターと併設

教会管理本部1階にあったブックセンターは，今年1月9日付けで東京神殿内に移転しました。ブックセンターの移転に伴って，昨年暮れより神殿に付設されているガーメントセンターの改装工事が行われ，ガーメントセンターと併設されました。これにより神殿衣料と教会書籍の購入が同時にでき，いっそうの便宜を図れるようになりました。

＊営業時間
火曜日～金曜日　14：00～19：15
土曜日，祭日　9：30～16：00
＊住所　〒106 東京都港区南麻布5-8-10
☎03(3440)4668



神殿ガーメントセンターと併設された教会ブックセンター

JMTC

1月に召された専任宣教師

第196期生　13人

前列左から1―8，後列左から9―13

〈名　前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1．二宮理英	大阪堺S/河内長野W	札幌伝道部
2．黒岩かお里	仙台S/山形W	名古屋伝道部
3．塚本優子	広島S/廿日市W	神戸伝道部
4．杉本久美子	名古屋西S/福徳W	福岡伝道部
5．竹村理佳	神戸M/御坊D/御坊B	沖縄伝道部
6．橋本りか	岡山S/鳥取B	福岡伝道部
7．神谷公代	岡山S/鳥取B	神戸伝道部
8．河井千恵	岡山S/鳥取B	札幌伝道部
9．右近竜一	札幌西S/琴似W	神戸伝道部
10．柳沼　言	名古屋西S/福徳W	福岡伝道部
11．松村清次	札幌S/札幌東W	神戸伝道部
12．星　直昭	東京北S/坂戸B	名古屋伝道部
13．小谷正樹	大阪堺S/河内長野W	福岡伝道部

S：ステーク，M：伝道部，D：地方部，W：ワード，B：支部

海外に召された日本人宣教師

山下　貴子
ハワイ・ホノルル伝道部，1995年10月，我孫子S/日立B

新刊のお知らせ

『預言者ジョセフ・スミスの証』（パンフレット，改訂版）

カタログ番号　32667 300 29頁　20円
最初の示現，『モルモン書』の翻訳と出版の経緯，神権の回復，教会の設立などをジョセフ・スミス自らが記している。

『イースター・ドリーム』（英語版ビデオカセット）

カタログ番号　53067　22分　550円
父親を亡くした少年がイエス・キリストの十字架と復活の真実の意味を，夢を通して知る。

役員の異動

1995年12月9日から1996年1月12日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動（敬称略）

●名古屋伝道部福井地方部
新地方部長：渡辺　健

●沖縄那覇ステーク名護支部
新支部長：武冨　功

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先（住所，電話番号），教会での責任（役職名），所属ユニット名を記入し，写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また，掲載までに時間がかかる場合もありますので，ご了承ください。

◎お願い――海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第，編集室に写真を添えてお知らせください。（氏名〔フリガナ〕，伝道部名，召された月を明記）

◎あて先：〒106 東京都港区南麻布5－10－30　末日聖徒イエス・キリスト教会　『聖徒の道』編集室
☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275